

小・中・都立学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

健 康 教 育

東京都教職員研修センター

目 次

| | |
|--------------|---|
| I 研究の主題 | 2 |
| II 研究設定の理由 | 2 |
| III 研究主題について | 2 |

「安全教育」分科会

| | |
|-----------------|----|
| I 研究の概要 | |
| 1 主題設定の理由 | 3 |
| 2 研究のねらい | 3 |
| 3 研究仮説の設定 | 4 |
| 4 研究の方法 | 4 |
| 5 研究の視点 | 4 |
| 6 研究の構想図 | 6 |
| II 研究の内容 | |
| 1 調査研究 | 8 |
| 2 安全教育指導計画例 | 9 |
| 3 安全教育評価観点例 | 11 |
| 4 検証授業 | 13 |
| III 研究の成果と今後の課題 | |
| 1 研究の成果 | 19 |
| 2 今後の課題 | 19 |

「心と体の健康と生活習慣に関する指導」分科会

| | |
|-----------------|----|
| I 研究の概要 | |
| 1 主題設定の理由 | 20 |
| 2 研究のねらい | 20 |
| 3 研究仮説の設定 | 21 |
| 4 研究の方法 | 21 |
| 5 研究の視点 | 21 |
| 6 研究の構想図 | 23 |
| II 研究の内容 | |
| 1 調査研究 | 24 |
| 2 指導計画例 | 26 |
| 3 評価計画例 | 28 |
| 4 検証授業 | 29 |
| III 研究の成果と今後の課題 | |
| 1 研究の成果 | 36 |
| 2 今後の課題 | 36 |

I 研究主題

東京都教育研究員 健康教育部会 全体研究主題
一人一人が健康への意識を高め、実践力をはぐくむ健康教育

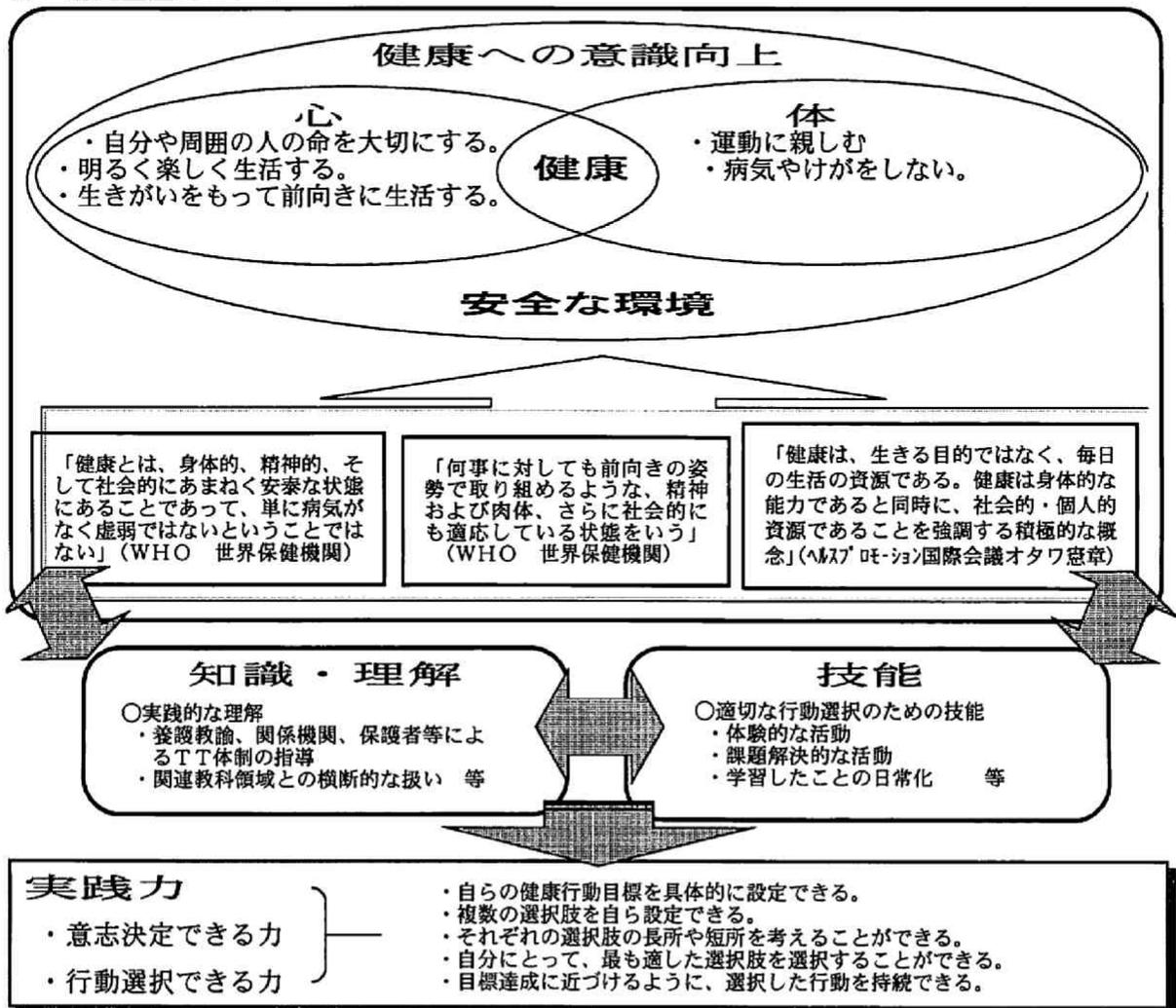
II 研究主題設定の理由

近年の児童・生徒を取り巻く社会は、国際化、情報化、少子・高齢化、科学技術の発展、環境問題の深刻化など、変化が著しい。また、人間関係の希薄化、規範意識の低下、生命軽視などの社会全体の風潮も問題となっている。これらに伴い、児童・生徒の健康に関する課題も深刻化している。

児童・生徒が、社会環境の急激な変化に主体的に対応し、生涯にわたり、たくましく生きていくためには、心身の健康の保持増進を図ることが大切である。学校における健康教育では、健康の大切さを認識するとともに、様々な健康課題に適切に対処し、健康を保持増進できる資質や実践力をはぐくむことが求められている。

本部会では、学校教育全体を通し、小学校・中学校・高等学校の発達段階に応じて健康教育を繰り返し行うことで健康への意識を高め、実践力をはぐくんでいくことができると考え、本主題を設定した。

III 研究主題について



分科会主題

| | |
|--|--|
| <p>A 「安全教育」分科会</p> <p>自他の生命を大切にし、安全について主体的に判断し行動する児童・生徒の育成</p> | <p>B 「心と体の健康と生活習慣に関する指導」分科会</p> <p>自分を大切にし、健康な生活を目指す児童・生徒の育成</p> |
|--|--|

「安全教育」分科会研究主題

自他の生命を大切に、安全について主体的に判断し行動する児童・生徒の育成

I 研究の概要

1 主題設定の理由

児童・生徒のおかれている環境は、急速な社会情勢の変化の中にある。そこには、有害情報の氾濫、性犯罪の低年齢化、依然として続く青少年犯罪、地域や家庭における教育力の低下、社会体験・生活体験・自然体験の不足など様々な課題がある。

最近では、不審者による犯罪被害、インターネット・携帯電話などの情報ネットワークを介した危険、友人関係の希薄化や対人問題の解決能力低下による傷害事件への発展など、新たに健康や安全を脅かす問題が発生している。

学校内では、児童・生徒の安全に関する知識不足や暴力・悪ふざけなどから、大小様々な事故が発生している。事故の発生を最小限にとどめることや、発生した際の適切な対応を行うことは、重要な課題である。

学校健康教育として、「学校保健」「学校給食」とともに「学校安全」が大きく分類されているように、安全教育が健康に果たす役割は大きい。健康と安全は密接にかかわっており、安全な生活なくして健康は維持できないと考える。そのため、児童・生徒に自他の心身や生命を守ることの大切さに気付かせる指導が必要である。

現在、学校では各教科・領域で安全に関する指導を行うとともに、地域や関係機関との連携による防犯・セーフティー教室・交通安全教室などに取り組んでいる。しかし、自他の健康・安全についての正しい知識の習得と的確な対処行動の定着までは十分に図られていないと考える。生命を尊重できる児童・生徒の育成を目指して、発達段階に応じた安全教育を、系統的、計画的に確実に実施していくことが重要である。また、一人一人の健康への意識・理解には個人差があることをふまえ、学習内容や学習方法・学習形態の工夫による個に応じた指導が必要である。

そこで、本分科会は、安全教育にかかわる年間計画の指導内容項目を、文部科学省資料（「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育）をもとに「生活安全」「交通安全」「災害安全」に分類した。そして、児童・生徒のおかれている生活環境から、「生活安全」をさらに犯罪被害防止・傷害の防止・情報ネットワークを介した犯罪防止の三つに細分化し、指導内容の系統性を明らかにした。小・中・高を通した年間指導計画を作成し、発達段階に応じた指導を各校種ごとに繰り返し実践することにより、一貫した安全教育の定着化を図れるものとする。このような考えに基づいて、指導を工夫することにより、育てたい児童・生徒像に迫ることができると考えた。

2 研究のねらい

- (1) 安全教育について、発達段階に応じた系統性のある指導内容を明らかにする。
- (2) 安全への意識を高め、危険を予知・回避・対処できる知識と行動選択の技能をはぐくむ指導方法の工夫及び改善をする。

(3) 生涯を通じて自他の生命を尊重する心の育成を図る指導の工夫をする。

3 研究仮説の設定

安全について、小・中・高の年間指導計画をもとに一人一人の実践力を高める工夫をすれば、育てたい児童・生徒像に迫ることができるであろうと考えた。

(1) 育てたい児童・生徒像

- ① 安全に対する高い意識をもてる児童・生徒
- ② 主体的に危険を予知・回避し、発生時は的確に対処できる児童・生徒
- ③ 自他の生命を尊重し、周囲の心身の健康と安全へも配慮できる児童・生徒

4 研究の方法

(1) 基礎研究

- ① 健康教育における安全教育の位置付け（7ページの図 参照）
- ② 参考文献
 - 「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育 文部科学省
 - 非行防止・犯罪被害防止教育 推進指導資料 東京都教育委員会
 - 実践力をはぐくむ健康教育の推進を目指して 指導資料 東京都教育委員会
 - 地域安全マップ作成マニュアル(本・ビデオ) 立正大学助教授 小宮信夫 著
 - 平成15年度教育研究員報告書 健康教育 東京都教職員研修センター
 - 平成14年度健康教育推進委員会報告書 指導資料 東京都教育委員会
 - 平成16年度「東京の教育21」研究開発委員会指導資料 東京都教育委員会

(2) 調査研究

児童・生徒の生命尊重の意識と安全に対する実態調査を実施し、分析する。

(3) 指導計画・評価計画

- ① 小・中・高の系統立てた指導計画・評価計画の作成
「生活安全（防犯・傷害・情報）・交通安全・災害安全～危険予知・回避・対処などについて～」をテーマに小・中・高の安全教育の年間指導計画・評価計画を作成する。
- ② 学校安全計画例の作成
教科・領域の安全学習、学級活動の安全指導、学校行事などを横断的にとらえ、それらの配列を工夫した計画例を作成する。

(4) 検証授業

指導内容・方法・形態・教材を工夫した授業を実施・評価し、授業改善をする。

5 研究の視点

本研究では次の3点を発達段階に応じて、指導を積み重ねることで、スパイラル効果により安全への意識・知識・技能を拡大・継続させ、生涯を通じて安全な生活を送れる実践力をはぐくむことができるのではないかと考えた。

(1) 自他の生命を尊重し、安全に関する意識を高める

自他の生命を尊重し、安全に関し継続した高い意識をもてる指導の工夫をする。学校行事・教科・道徳・学級活動を関連付けて、学校安全教育の指導の工夫をすることが効果的である。

例えば、生命尊重や安全を取り扱う学級活動や道徳と保健学習をつなげた、学校安全教育計画を立案・実施することにより、安全への意識が高まり学習効果も上がると考える。また、学級指導などでも生命尊重や安全に関する指導を行い、意識の継続や高まりを日常的に図ることも重要である。

(2) 危険を予知・回避し、対処するための知識を習得させる

健康は安全な生活の上になり立つことを理解し、普段の生活の中にある様々な危険の可能性に気付くことが、傷害や犯罪から自分を守る安全な行動へとつながると考える。

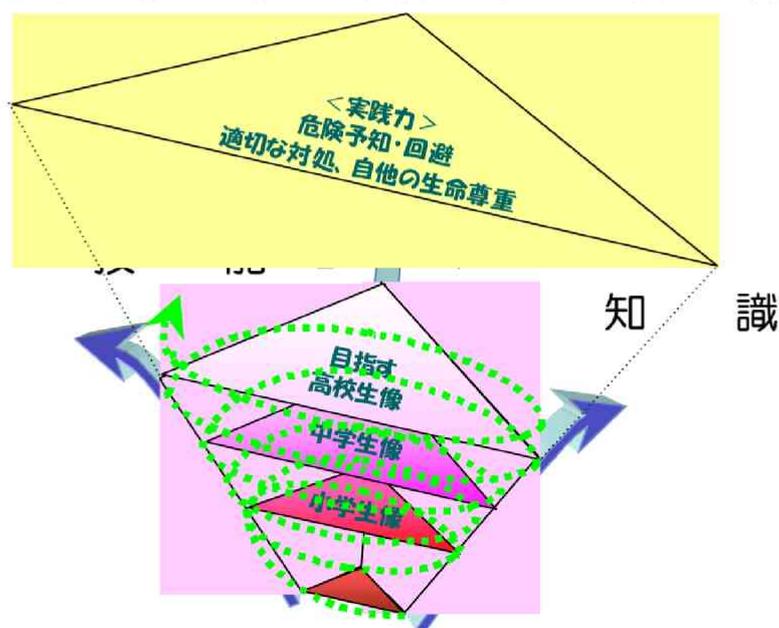
安全な行動をとるには、危険が予知できる、危険を回避する方法を知っていること、自分や周りの人が危険な場面に遭遇した場合の対処方法を知っておくことが必要である。安全について確かな知識を身に付けさせるために、児童・生徒の実態に即した題材（単元）設定や関心・興味をもたせる教材の工夫・開発はもちろん、養護教諭と学級担任・教科担任とのT.T.による学習や、スクールサポーターなどの関係機関と連携した指導の工夫をする。

さらに、年間指導計画を作成する際は、安全にかかわるあらゆる分野での指導を関連付けることが重要である。安全にかかわる各教科の単元を横断的につなげることや、並行してセーフティー教室などの学校行事、道徳・学級活動・総合的な学習の時間などで扱う安全教育を実施する学校安全計画の作成が効果的である。横断的な配列を工夫した安全教育を実施することで、安全を総合的な角度から知識としてとらえることができる。

(3) 適切な行動を選択できる技能を育成する

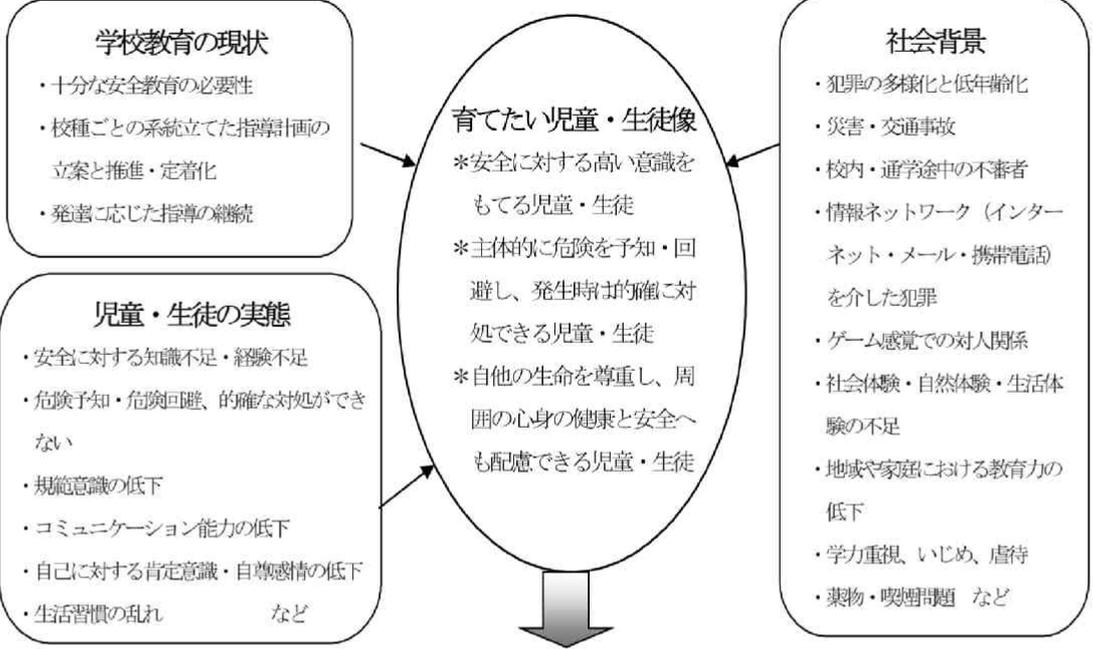
危険を予知・回避し、発生時には適切な行動を選択できる技能を育成する指導の工夫をする。安全に関する知識があっても、実際に行動に生かされていない場合がある。危険から自分の心身を守るためには、複数ある対処方法を適切に選択し、行動できる技能が必要である。

地域安全マップづくりやロールプレイング、ケーススタディなどの体験的な活動や課題解決的な学習を通し、安全な行動選択と、その場面に応じた適切な行動がはぐくまれると考える。さらに指導内容を発達段階に応じ繰り返し指導すれば、これらの技能の定着化が図られる。



安全 教 育

健康教育部会 全体研究主題 一人一人が健康への意識を高め、実践力をはぐくむ健康教育

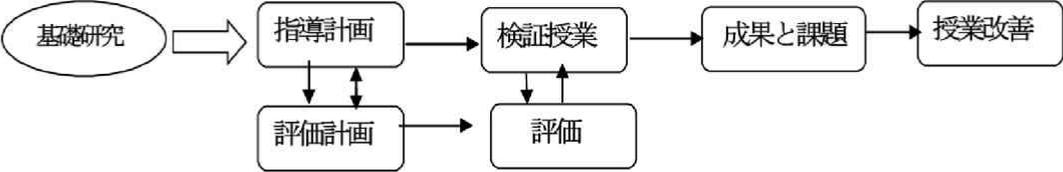
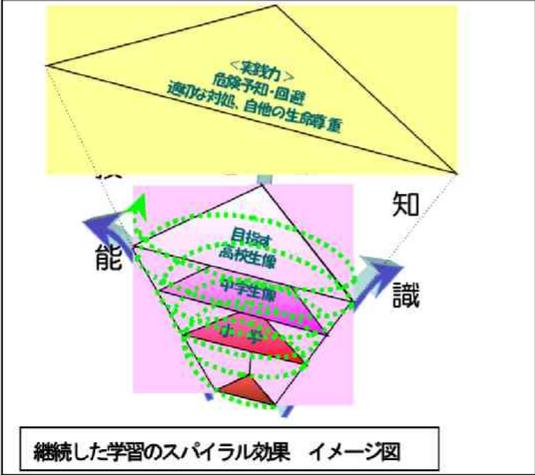


分科会研究主題
「自他の生命を大切にし、安全について主体的に判断し行動する児童・生徒の育成」

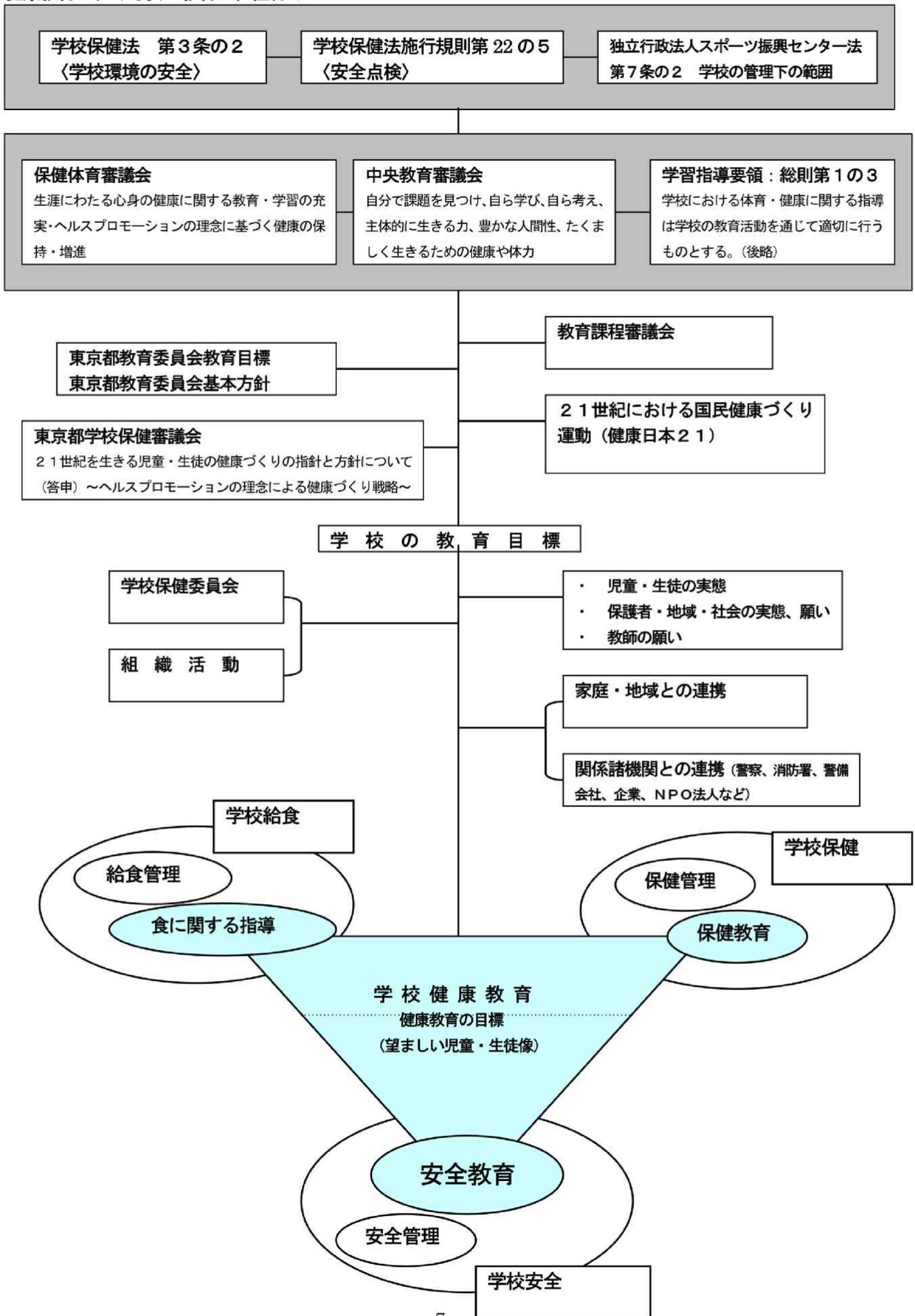
研究の仮説: 安全について小中高の年間計画をもとに一人一人の実践力を高める工夫をすれば、育てたい児童・生徒像に迫ることができるであろう。

調査研究結果
安全に対する意識・知識をもつ児童・生徒は、危険に対して適切な行動がとれる傾向にある。

- 研究の視点
- ① 自他の生命を尊重し、安全に関する意識を高める。
 - ② 危険を予知・回避し、対処できる知識を習得させる。
 - ③ 適切な行動を選択できる技能を育成する。



健康教育における安全教育の位置付け



II 研究の内容

1 調査研究

(1) 目的：自他の生命を尊重する意識と安全に対する実態を把握し、安全教育を行う上での本分科会の基礎資料とする。

(2) 方法：質問紙法

(3) 対象：「安全教育」分科会研究員所属校

小学校4年生から高等学校3年生までの児童生徒

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 合計（人） |
|----|-------|-----|------|-------|
| 人数 | 1,466 | 271 | 439 | 2,176 |

(4) 実施時期：平成17年7月11日（月）～7月20日（水）

(5) 調査仮説：安全に対する、意識・知識をもっている児童・生徒は危険に対して適切な行動選択がとれるであろう。

〈相関係数の見方〉
強い相関関係がある
 $\geq 0.4 \sim 0.7$

(6) 調査の結果

① 「安全に対する意識」と「危険に対する適切な行動選択」の相関関係

安全に対する意識の質問である「学校内での約束を守るのは大切だと感じますか。」と危険に対する対処の質問である「危険な場所に近寄らないようにしていますか。」の相関係数は0.41であった。このことにより、両者には強い相関関係が示され、安全に対する意識のある児童・生徒は危険に対する適切な対処がとれるといえる。

② 『安全に対する知識』と『危険に対する適切な行動選択』の相関関係

安全に対する知識の質問である「けがをしたとき簡単な手当てはできますか」と危険に対する対処の質問「危ないときどうやって避けたらよいか知っていますか。」の相関係数は0.44であった。このことにより両者に強い相関関係が示され、安全に対する知識のある児童・生徒は危険に対する適切な対処がとれるといえる。

(7) 調査のまとめ

調査の結果、安全に対する意識のある児童・生徒は危険に対する適切な行動選択がとれるとともに安全に対する知識のある児童・生徒は危険に対する適切な行動選択がとれる。2つの相関関係が示されたことによって、安全に対する意識・知識を高めることによってのある児童・生徒は危険に対して適切な行動選択がとれるという調査仮説が証明された。

これらを踏まえて、安全教育を計画的に進めることにより児童・生徒に自他の生命を尊重し、安全に関する意識をはぐくむことができると考えた。さらに、安全を予知・回避・対処できる知識を深めていくことのできる指導の工夫により、危険に対する適切な行動選択のための技能の育成につなげていくことができるであろう。

安全教育指導計画 例（小学校）

| | | 小学校（小学部）1年 | 小学校（小学部）2年 | 小学校（小学部）3年 | 小学校（小学部）4年 | 小学校（小学部）5年 | 小学校（小学部）6年 | |
|----------|------|--|--|---|--|---|------------|--|
| 安全 教育 | ねらい | ○生命の大切さを知るとともに、身の回りの危険について理解できるようにする。 ○安全に行動できるようにする。 | ○生命を尊重するとともに、身の回りの危険について理解できるようにする。 ○すすんで、安全に行動できるようにする。 | ○生命を尊重するとともに、身の回りの危険について理解できるようにする。 ○すすんで、安全に行動できるようにする。 | ○自他の生命を尊重し、安全な生活のために必要なことを理解できるようにする。 ○すすんで決まりを守り、安全に行動できるようにする。 | | | |
| | 生活安全 | 犯罪被害防止 | 学級活動：身の回りの安全、自分の身を守る 道徳：生命尊重、規則の尊重 防犯教室・セーフティー教室：子ども110番の家 遊び場や行き帰りの安全 | 総合的な学習の時間：わが町たんけん、生活安全マップづくり 学級活動：誘拐の起こる場所 道徳：生命尊重、公德心 防犯教室・セーフティー教室：誘拐の起こりやすい場所 遊び場や行き帰りの安全 | 保健学習：育ちゆく体とわたし 総合的な学習の時間：安全はかせになろう、防災マップづくり 学級活動：身の回りの犯罪、防犯にかかわる人たち 道徳：生命尊重、公德心 防犯教室・セーフティー教室：誘拐の起こりやすい場所 遊び場や行き帰りの安全 | 保健学習：心の健康 総合的な学習の時間：安全はかせになろう、防災マップづくり 学級活動：身の回りの犯罪、防犯にかかわる人たち 道徳：生命尊重、公德心 防犯教室・セーフティー教室：誘拐の起こりやすい場所 遊び場や行き帰りの安全 | | |
| | | 傷害の防止 | 各教科（図画工作科、体育科など）：学校設備の使用上の注意、単元で使用する物品の適切な使用方法と安全指導 道徳：生命尊重、尊敬・感謝、規則の尊重・公德心、友情・信頼・助け合い、節度・節制 学級活動：夏休み・冬休み・春休みの過ごし方、遠足時の安全、廊下の安全な歩行の仕方、校庭や屋上のきまり、雨天時の安全な過ごし方、凍結時の注意 | | | | | |
| | 情報 | ネットワーク | 学級活動：電話の安全な受け答え 自分のパスワードでログインする。 | 総合的な学習の時間：情報に関するマナー、電子メールのきまり パスワードの大切さ、機器を正しい方法で使う。 道徳：メール上でも丁寧な言葉を使う。 学級活動：個人情報流さない | 総合的な学習の時間：情報に関するマナー、電子メールのきまり パスワードの大切さ、機器を正しい方法で使う。 道徳：メール上でも丁寧な言葉を使う。 学級活動：個人情報流さない | 社会科：私たちの生活と情報 総合的な学習の時間：電子メールや掲示板のきまりとマナー 電子メールの送受信、機器を正しい操作法で扱う 道徳：ネチケットについて考える 学級活動：個人の特定できる画像を使用しない | | |
| | 交通安全 | 交通安全 | 生活科：町たんけん時の交通安全、公園までの交通安全 学級活動：通学路の確認、安全な登下校 交通安全教室：横断歩道の渡り方、自転車乗車時の約束 身近な道路標識 | 社会科：安全なくらしと町づくり、お店たんけん時の交通安全 総合的な学習の時間：交通安全マップづくり 学級活動：通学路の確認、安全な登下校 交通安全教室：横断歩道の渡り方、自転車乗車時のきまり 自転車に関する標識 | 社会科：安全なくらしと町づくり 総合的な学習の時間：交通安全マップづくり 学級活動：通学路の確認、安全な登下校 交通安全教室：横断歩道の渡り方、自転車乗車時のきまり 自転車に関する標識 | 保健学習：けがの防止 総合的な学習の時間：交通安全マップづくり 学級活動：通学路の確認、安全な登下校、交通事故から身を守る 交通安全教室：交通ルールを守ろう、自転車の点検と整備の仕方 | | |
| 災害安全 | 災害安全 | 学級活動：避難訓練（防災）への参加の仕方 避難訓練：「おかしも」のやくそく、台風の危険、落雷の危険 災害時の正しい行動の仕方、安全な集団行動 | 社会科：安全なくらしと町づくり 学級活動：避難（防災）訓練の積極的な参加 避難訓練：「おかしも」のやくそく、台風の危険、落雷の危険 屋外への避難の仕方 | 社会科：安全なくらしと町づくり 学級活動：避難（防災）訓練の積極的な参加 避難訓練：「おかしも」のやくそく、台風の危険、落雷の危険 屋外への避難の仕方 | 保健学習：けがの防止 学級活動：避難（防災）訓練の意義 避難訓練：「おかしも」のやくそく災害時の携帯品、落雷の危険 台風の危険、火災防止、避難場所 | | | |

安全教育指導計画 例（中学校・高等学校）

| | | 中学校（中学部） | 高等学校（高等部） | |
|----------|---|---|--|---|
| 安全 教育 | ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ○自他の生命を尊重し、健康・安全に対し、科学的に理解できるようにする。 ○健康・安全に対する理解を通じ、生涯を通して自らの健康を適切に管理していく資質や能力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自他の生命を尊重し、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解することができるようにする。 ○生涯を通じ、他の人々や社会の安全に貢献できる能力を育成する。 | |
| | 生活安全 | 犯罪被害防止 | <p>保健体育：心身の発達と心の健康 保健体育：傷害の防止</p> <p>道徳：いじめ、差別、偏見（身近で起きやすい事例検討）</p> <p>学級活動・防犯教室・セーフティー教室 波及する傷害、犯罪被害の種類（社会問題・地域で多発しているものまで）とその原因防止対策 通報、PTSDについて</p> | <p>保健：応急手当て、精神の健康 保健：環境と健康、労働と健康</p> <p>道徳：いじめ、差別、偏見（身近で起きやすい事例検討）</p> <p>学級活動、防犯教室・セーフティー教室：通学時の安全、長期休業中の生活と安全、犯罪被害防止 地域周辺の治安</p> |
| | | 傷害の防止 | <p>保健体育：傷害の防止、健康と環境 保健体育：健康な生活と疾病の予防</p> <p>各教科：学校設備の使用上の注意、単元で使用する物品の適切な使用方法と安全指導</p> <p>道徳：生命の尊さ、友情、法の遵守、社会連帯、社会への奉仕</p> <p>学級活動、学校行事：救命講習 避難訓練、校内で多発している事故とその発生理由（原因）と予防、 季節・学校行事により起きやすい健康障害と予防、地域周辺の治安について、心の健康とストレスへの対処</p> | <p>各教科：学校設備使用上の注意、単元で使用する物品の適切な使用方法と安全指導</p> <p>現代社会：現代に生きる私たちの課題、現代の社会生活と青年 倫理：青年期の課題と自己形成、現代に生きる人間の倫理</p> <p>学級活動：体育祭安全指導、文化祭安全指導、マラソン大会安全指導、武道大会安全指導 学校行事：新入生オリエンテーション、修学旅行安全指導、救急法実技講習会</p> |
| | 情報 | ネットワーク | <p>技術・家庭：情報とコンピューター、わたしたちの消費と環境</p> <p>道徳：他人への配慮（ネット上でのマナーとルール）</p> <p>学級活動：個人情報取り扱い方とプライバシーの保護（メールアドレスの取り扱い方） 多様化する犯罪被害と予防対策など</p> | <p>情報：情報の収集・発信における問題点、情報社会への参加と情報技術、情報化の進展が生活に及ぼす影響 問題解決とコンピュータの活用</p> <p>家庭科：家庭生活と情報、消費生活と環境</p> <p>学級活動：個人情報取り扱い方とプライバシーの保護 メール送受信、振り込め詐欺、架空請求詐欺、マルチ商法</p> |
| | 交通安全 | <p>保健体育：傷害の防止</p> <p>学級活動：交通事故防止：通学路の確認、交通事故の原因と事故の特性、被害と加害、通報</p> | <p>保健：交通安全 保健：応急手当て</p> <p>学級活動：通学時の安全、地域周辺の治安、交通事故の防止 学校行事：交通安全講話、交通安全教室、自転車バイクの安全指導</p> | |
| 災害安全 | <p>保健学習：傷害の防止</p> <p>学級活動、学校行事：避難訓練、自然災害：地震発生時の避難方法と経路（津波対策を含む） 台風時の対処方法と避難経路、雷鳴・落雷時の対処と避難、降雷時の事故と安全、停電時の生活 外出時（旅行時を含む）の自然災害遭遇の対処、災害遭遇後のPTSDと治療と理解</p> | <p>保健：応急手当て</p> <p>総合的な学習の時間：災害における応急救護、災害ボランティア活動体験、</p> <p>学校行事：防災訓練、避難訓練、救急法実技講習会</p> | | |

安全教育評価観点 例（小学校）

| | | 小学校（小学部）1年 | 小学校（小学部）2年 | 小学校（小学部）3年 | 小学校（小学部）4年 | 小学校（小学部）5年 | 小学校（小学部）6年 |
|----------------|---|--|---|--|--|---|------------|
| ねらい | | ○生命の大切さを知るとともに、身の回りの危険について理解できるようにする。 ○安全に行動できるようにする。 | | ○生命を尊重するとともに、身の回りの危険について理解できるようにする。 ○すすんで、安全に行動できるようにする。 | | ○自他の生命を尊重し、安全な生活のために必要なことを理解できるようにする。 ○すすんで決まりを守り、安全に行動できるようにする。 | |
| 生活安全 | 犯罪被害防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・決まりを守り、安全な行動をしようとしている。（関） ・安全なこと、危険なことについて考えることができる。（思） ・学習したことを手がかりにして、安全に行動することができる。（技） ・自分の身を守るために必要な決まりや、約束の大切さを理解することができる。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・すすんで決まりを守り、安全な行動をしようとしている。（関） ・身の回りの危険を予測し、犯罪の被害に遭わない安全な生活について考えることができる。（思） ・学習した内容を生かし、身の回りの危険な場所を見極め、危険を回避することができる。（技） ・安全な場所か危険な場所かの判断の仕方を知り、自分の身を守る方法を理解することができる。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・すすんで決まりを守り、自他の安全に必要な行動をしようとしている。（関） ・危険を予測し、犯罪の被害に遭わない安全な生活をおくるために必要なことを考えることができる（思） ・学習した内容を生かし、犯罪に遭わない方法や、遭った場合の対処法を適切に選択し実践することができる。（技） ・毎日の生活の中に潜む様々な危険を知り、自分の身を守る適切な方法を理解する。（知） | |
| | 傷害の防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・決まりを守り、安全な行動をしようとしている。（関） ・安全なこと、危険なことについて考えることができる。（思） ・けがをしたら大人に知らせるとともに、簡単な手当てができる。（技） ・けがを防ぐために必要な決まりや約束の大切さを理解することができる。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・すすんで決まりを守り、安全な行動をしようとしている。（関） ・安全な行動や危険な行動について判断することができる。（思） ・けがをした場合の簡単な手当てや、通報ができる。（技） ・けがを防ぐ方法や決まりを守る大切さを理解できる。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・すすんで決まりを守り、自他の安全に必要な行動をしようとしている。（関） ・危険を予測し、けがの発生要因と防止の方法を考えることができる。（思） ・周囲の危険に気付き、けがを防ぐ行動を選択するとともに、けがをした場合の簡単な手当てや通報ができる。（技） ・けがの防止には、的確な判断の下、安全に行動することや環境を安全に整えることが必要であることを理解する。（知） | |
| | 情報ネットワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器に触れ、使い方や決まりを守ろうとしている。（関） ・電話での安全な受け答えの方法を考えることができる。（思） ・自分の言葉遣いに気を付けて伝えようとするすることができる。（技） ・電話やパソコンの決まりや約束の大切さを理解することができる。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上での情報交換、情報入手の際に、コンピュータの向こう側に相手がいることを意識している。（関） ・目的に合った情報を集め、自分に必要な内容を選択し整理することができる。（思） ・正しい情報を基に調べたことをまとめ、受け取る側を意識した発表をすることができる。（技） ・電子メール交換などの情報交換のマナーを知る。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の場でのエチケットと同じように、ネチケットを守ろうとしている。（関） ・内容の真偽や意図に注意して、情報を取捨選択できる。（思） ・各種のメディアを活用し、相手の気持ちを配慮しながら、自分の考えや思いを伝えることができる。（技） ・個人情報の保護・著作権などの決まりを守り、有害情報などの様々な危険から自分を守る方法を正しく理解する。（知） | |
| 交通安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全の決まりを守り、安全な行動をしようとしている。（関） ・交通安全について、考えることができる。（思） ・学習したことを手がかりにして、安全に行動することができる。（技） ・交通安全の決まりや約束を守ることの大切さを理解することができる。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・的確な判断の下に、交通安全の決まりを守り行動をしようとしている。（関） ・様々な事柄から、交通安全について考えることができる。（思） ・学習した内容を生かし、適切に安全な行動をすることができる。（技） ・登下校時などに潜む危険性を理解することができる。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・的確な判断の下に、自他の安全に必要な行動をしようとしている。（関） ・登下校時などの危険を予測し、交通安全について考えることができる。（思） ・交通事故発生時に通報ができる。（技） ・登下校時などに潜む危険性と、自分の身を守る適切な方法を理解する。（知） | | |
| 災害安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・「おかしも」の約束を守り、安全な行動をしようとしている。（関） ・災害について、考えることができる。（思） ・学習したことを手がかりにして、安全に行動することができる。（技） ・避難訓練の決まりや約束を守ることの大切さを理解することができる。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・「おかしも」の約束を守り、的確な判断の下、安全な行動をしようとしている。（関） ・様々な事柄から、災害について考えることができる。（思） ・学習した内容を生かし、適切に行動することができる。（技） ・災害時に潜む、危険性を理解することができる。（知） | | <ul style="list-style-type: none"> ・的確な判断の下に、自他の安全に必要な行動をしようとしている。（関） ・災害時の危険を予測し、災害時における安全な行動について考えることができる。（思） ・学習した内容を生かし、適切に行動を選択し、避難訓練などで実践することができる。（技） ・災害時に潜む危険性と自分の身を守る適切な方法を理解する。（知） | | |
| 評価する教科・領域・特別活動 | ◎生活科、体育科、図画工作科、道徳、学級活動、学校行事 | | ◎社会科、理科、体育科（保健）、図画工作科 総合的な学習の時間、道徳、学級活動、学校行事 | | ◎社会科、理科、体育科（保健）、図画工作科 総合的な学習の時間、道徳、学級活動、学校行事 | | |

（関）…関心・意欲・態度にかかわる観点 （思）…思考・判断にかかわる観点 （技）…技能・表現にかかわる観点 （知）…知識・理解にかかわる観点

安全教育評価観点 例（中学校・高等学校）

| | | 中学校（中学部） | 高等学校（高等部） |
|----------------|---|---|--|
| ね ら い | | <ul style="list-style-type: none"> ○自他の生命を尊重し、健康・安全に対し、科学的に理解できるようにする。 ○健康・安全に対する理解を通じ、生涯を通して自らの健康を適切に管理していく資質や能力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自他の生命を尊重し、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解できるようにする。 ○生涯を通じ、他の人々や社会の安全に貢献できる能力を育成する。 |
| | 犯罪被害防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪に巻き込まれないよう回避・対処する方法を、日常生活に生かそうとする。(関) ・犯罪の種類・パターンから、犯罪回避・対処方法を導き出し、自分の生活にどう生かしていくかを考えることができる。(思) ・犯罪への回避行動・対処をし、犯罪被害防止のために他と協力することができる。(技) ・犯罪の種類やパターン、犯罪被害について理解し、自己の生活に生かせる回避対処方法を理解することができる。(知) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の犯罪被害の現状を知り、犯罪防止に意識を向けた生活をおくろうとしている。(関) ・地域社会の安全を構築する一員として、犯罪被害の回避と適切な行動を考えることができる。(思) ・地域社会の防犯活動に積極的に参加し、被害発生時には関係機関との協力・連携を図ることができる。(技) ・地域の安全確保のために、犯罪防止活動や適切な行動選択を理解することができる。(知) |
| | 生活安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全な生活の大切さに気付き、自らの傷害防止の課題を明確にし、その改善を心がけようとする。(関) ・適切な応急処置の重要性を知り、傷害発生時にはその場面に応じた応急処置を考えて、行動を選択することができる。(思) ・日常的に、けがの防止を図り、傷害発生時は応急処置を実践することができる。(技) ・傷害発生時のメカニズムや、その傷害に応じた回避方法・応急処置を理解し、けが予防・悪化防止を知ることができる。(知) | <ul style="list-style-type: none"> ・傷害の防止を心がけ、生活行動を見直し、自他の安全な生活に配慮しようとする。(関) ・傷害発生時の関係機関との迅速な連絡・協力、適切な応急処置の重要性をふまえ、場面に応じて判断することができる。(思) ・傷害防止を図った生活をおくり、心肺蘇生法や適切な応急手当の技能を保持し、必要に応じて関係機関との協力・連携をすることができる。(技) ・自他の安全確保に向けて、傷害防止・発生時の適切な行動選択を理解することができる。(知) |
| | 情報ネットワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・自他の個人情報取り扱いに配慮し、適切な情報管理・情報モラルを身に付けようとする。(関) ・受け取る情報を見極め、発信する情報の内容や方法について責任をもって判断することができる。(思) ・適切な情報収集・情報発信ができ、情報通信ネットワークを安全に利用し生活に生かすことができる。(技) ・情報ネットワークを介した様々な犯罪と情報が社会にもたらす影響を理解することができる。(知) | <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割やその影響を意識し、自己の情報モラルの必要性や情報発信に責任をもとうとする。(関) ・情報の的確な取捨選択と適切な発信内容・手法を常に考え、情報ネットワークを介した加害者・被害者になっていないか判断することができる。(思) ・自他の生活に、安全な情報ネットワークが構築される信頼性のある情報管理をすることができる。(技) ・情報ネットワークを介した犯罪の特徴を知り、適切な個人情報の取り扱いや著作権の尊重、ガイドラインの遵守、セキュリティなどの重要性から、情報社会を生きる社会人としての在り方を理解することができる。(知) |
| 交通安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故を予知・回避することの大切さに関心をもち、安全に行動しようとする。(関) ・交通事故発生時のメカニズムから、安全な行動のために対策を考えることができる。(思) ・交通事故を防止する安全な行動がとれ、交通事故発生時は、地域社会の一員として対応することができる。(技) ・深刻化する交通事故の現状とその背景を知り、自らの生活に生かし、危険の予知・回避と、事故発生時の適切な対処を理解することができる。(知) | <ul style="list-style-type: none"> ・自他の交通安全に意識を向け、交通事故を防止しようとしている。(関) ・交通安全に必要な環境の確保や整備の視点から、自他の交通事故防止について考えることができる。(思) ・交通事故防止のための安全確保・環境整備について主体的に取り組み、事故発生時には適切な応急手当と通報ができる。(技) ・交通事故の発生メカニズムと現状から、事故の予知・回避方法を理解し、社会の一員として交通事故防止に貢献できる在り方を理解することができる。(知) | |
| 災害安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害への迅速かつ適切な対処の重要性に気付き、災害への高い意識をもち、発生に備えようとしている。(関) ・災害時の危険を予測し、災害被害の最小限化を目指した対処・回避について考えることができる。(思) ・災害発生時には自他の安全確保に努め、地域社会の一員として協力して活動することができる。(技) ・様々な災害の特徴と発生時のメカニズムを知り、災害被害の最小限化を目指した対処・回避方法を理解することができる。(知) | <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生への心構えをもち、地域社会の安全確保に向け、災害対策や環境整備に備えようとしている。(関) ・災害発生時の影響について考え、災害対策のための適切な行動について判断することができる。(思) ・災害発生時には自他の安全を確保し、ボランティア活動を通じて地域社会の人々に貢献することができる。(技) ・災害対策や環境整備の重要性を理解し、地域社会の災害安全に貢献することの大切さを知ることができる。(知) | |
| 評価する教科・領域・特別活動 | ◎ 保健体育科、理科、技術・家庭科、道徳、学級活動、学校行事 | | ◎ 公民科（現代社会）、保健体育科（保健）、理科（理科総合B）道徳、学級活動、学校行事 |

(関) …関心・意欲・態度にかかわる観点 (思) …思考・判断にかかわる観点 (技) …技能・表現にかかわる観点 (知) …知識・理解にかかわる観点

4 検証授業

(1) 小学校

① 単元設定の理由

小学校段階では善悪の判断に基づく行動様式の基礎形成ができるかどうかの大切な時期であり、規範意識の高揚を図る指導が重要である。児童の主体性を尊重しつつも、自分を内省できる力を身に付けられるようにすることも大切である。また、そのためには、日々の生活の中で好ましい具体的な体験を行えるようにしていくことが必要である。そこで、安全に関する内容を、各教科・領域を横断的にとらえた学習計画として作成した。特に、体験的な学習の時間や課題解決の活動の時間を保証できる総合的な学習の時間を中心に、効果的な学習活動を展開できるように考えた。

② 研究の視点との関連

ア 自他の生命を尊重し、安全に関する意識を高める

健康は安全な生活の上に成り立つこと、安全な生活を送るためには心身の健康や自他の生命を大切にしていけることが必要であることを、学校行事（セーフティ教室、避難訓練等）、道徳（生命尊重、公德心・規則尊重）で横断的に取り扱い、安全に関する意識を高めていくこととした。また、学級の時間などを活用し、情報交換を継続して行うことにより、意識のさらなる向上を考えた。

イ 危険を予知・回避し、対処するための知識を習得させる

児童はこれまでの経験から、危険についての知識はある程度もっているが、十分とは言えない。そこで、日常生活の中に潜む危険の判断基準（「入りやすい場所・見えにくい場所」は危険）を提示することで、児童に共通認識させ、フィールドワークを通し、実際に体験させることで危険を予知・回避できる知識を習得させると考えた。

ウ 適切な行動を選択できる技能を育成する

これからの児童の安全について、特に予防に対しての技能を育成したい。そこで、「安全な場所」・「危険な場所」に着眼したフィールドワークを体験することにより、犯罪が起りやすい場所を事前に見分ける力を習得させる。さらに、取材活動を通して地域の人たちと積極的に触れ合いをもたせ、自らも安全な社会をつくる一員であるという自覚をはぐくむことが可能になると考えた。

【第4学年 学習計画の例】

| 主な学習活動〔□指導領域・○時間数〕 | 評価観点 |
|---|--|
| 学校行事 セーフティ教室（警察との連携）② 「危険から身を守るために」 ・ロールプレイング | ○的確な判断のもとに安全な行動をしようとしている。【 関心・意欲・態度 】 ○危険から身を守る方法を理解することができる。【 知識・理解 】 |
| 道徳 規則尊重（心のノート）① 「やくそくやきまりを守るから仲良く生活できる」 | ○健康は安全な生活の上に成り立っていることを理解することができる。【 知識・理解 】 ○規則を守って安全に生活していこうとする。【 関心・意欲・態度 】 |
| 道徳 生命尊重 ② ◎総合的な学習の時間 I 「安全な場所・危険な場所について考えよう」③ ・スクールサポーターとのT.T ・散策とケーススタディ | ○自他の生命を尊重していこうという意識を高める。【 関心・意欲・態度 】 ○安全な日常生活について考えることができる。【 思考・判断 】 ○地域に潜む様々な危険性を理解することができる。【 知識・理解 】 ○身の回りの危険を予測し、犯罪が起りやすい場所を見分けることができる。【 思考・判断 】 |
| 道徳 公德心 ① | ○自己の行動を振り返り、他の人にとっても安全な行動について考える。【 思考・判断 】 |

| | |
|---|--|
| <p>学校行事 避難訓練 「不審者侵入対策」①</p> <p>◎総合的な学習の時間Ⅰ</p> <p>「自分たちに役立つ地域安全マップを作ろう」⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク・地図作成 <p>「発表会を開こう」②</p> <p>◎冬休みの課外活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ったマップを使う。 ・出かけた場所でも安全を考えて行動しよう。 <p>◎総合的な学習の時間Ⅱ</p> <p>「学習のまとめをしよう」②</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○防犯についての危険回避・対処方法を実践的に理解する。 【知識・理解】 ○安全について学んだ判断基準を生かし、フィールドワークを進んで行っている。 【思考・判断】【技能・表現】 ○伝える相手を考えて安全の判断基準を明確にして「地域安全マップ」を作成し、発表できる。 【思考・判断】【技能・表現】 ○作成したマップを実際に使って、さらに改良していく。 【思考・判断】 ○応用して他の地域でも危険予知・回避することができる。 【思考・判断・技能】 ○学習した内容を生かし、適切に行動することができる。 【技能・表現】 ○改善した「地域安全マップ」を作成し、低学年に向けて発表できる。 【思考・判断】【技能・表現】 |
|---|--|

③ 成果

体験的な活動から実践的活動へ

- ・ 導入時に散策活動を行わせ、児童に安全への関心をもたせた上で危険や安全な場所の具体的な判断基準を与えたことは、課題意識を高めることにつながった。
- ・ フィールドワークとマップ作成を繰り返し行うことで、主体的に危険な場所を見つける力がはぐくまれた。
- ・ 友達同士で調べたことや気がついたことを伝え合うことや地域住民に話を聞くことでコミュニケーション能力が高まり、自らも安全な社会を作る一員であるという自覚が芽生え、規範意識の高揚や安全への実践力の育成につながった。
- ・ 学級の時間に情報交換の場を設定したり、クラスの掲示板に地域安全マップコーナーを設けたりして、積極的に情報を集めてきた児童の意見を全体の場で発表させ、日常的に取り組むことができた。
- ・ 単元計画を組むに当たって、横断的に他教科・他領域と関連させながら学習を深めたことにより知識理解にとどまらず、実践につなげることができた。特に、道徳の生命尊重や公德心・規則尊重の授業との関連を重点的に行ったことは切実感をもって学んでいくのに効果的であった。



スクールサポーターとの連携から家庭への啓発へ

- ・ 専門的知識を生きた言葉で伝えてもらうことは、心に響く学習の実践となり、児童により確かな知識の定着を図るのに効果的であった。
- ・ 休日や放課後などに保護者が児童と共に実際に歩き、情報を自主的に取材している様子が見られた。



個に応じた指導

- ・ 児童の課題解決が主体的・継続的に行なわれるように、学習のまとめごとに作文を取り入れ、個々への評価を返すことで、安全への価値付けを行うことができた。
- ・ 事前の防犯への実態調査を保護者と児童に行い、詳しく分析することは、個に応じた安全に対する価値観や実践力を育てる手だてを考えることに有効であった。

④ 課題

- ・ 地域安全マップの今後の活用法の吟味と工夫する必要がある。(継続・発信の仕方等)
- ・ 安全の意識を高め確かな実践力をはぐくんでいくためには、発達段階にあわせた縦断的な指導の位置付けと計画的な推進が必要である。

(2) 中学校

① 単元設定の理由

最近の傾向として中学生は、少子化、地域・家庭の教育力低下、コミュニケーション能力の低下、様々な体験の不足などから問題解決能力の低下が指摘されている。本分科会調査でも、中学生期の規範意識の低下や健康に対する知識はあっても実生活に行動が伴わないことが明らかになっている。これらは健康を脅かすものであり、生徒の安全への意識を向上させることが重要である。そこで、生徒が描いた人生設計図をモデルケースにし、課題解決型のグループ学習をすることで安全への意識を高め、予定されている保健学習への意欲も高まると考え設定した。

② 研究の視点との関連

ア 自他の生命を大切にし、安全に関する意識を高める

生徒の人生設計図をモデルケースに用いて学習することで、健康は安全の上に成り立つことに気付き、生涯を通じて「安全」を自己の健康課題としてとらえられ、安全を個人から、周囲の人々や地域社会へ広がる視点ももてる。

イ 危険を予知・回避し、対処するための知識を習得させる

モデルケースを通して、問題とされるその原因と予防、回避、対処を考える課題解決型のグループワークを行うことは、危険の種類によっては予知・回避できるものがあること、遭遇時には適切な対処が重要であることを理解できる。そして生活の中には様々な危険があることをモデルケースから知り、より危険を身近に感じることができる。今回は、様々な危険に対し、予防対策・回避方法・対処を簡単に説明するまでにとどめ、今後予定されている保健学習へのガイダンス的な役割とした。後続する授業への意欲を向上させ、知識のさらなる習得につなげられる。

ウ 適切な行動選択ができる技能を育成する

今回の検証授業は、適切な行動選択ができる技能に直結するまでに至らないが、モデルケースを通じて、現在の安全な生活が将来の健康の土台となっていることを理解できる。このことによって安全に対する意識を日常的に持てるようになり、複数ある選択肢をその都度よく考え判断することにつながる。これは、適切な行動を選択しようとする前段階であり、適切な行動選択ができる技能へ近づけるものである。

【第3学年 学習計画の例】

| 主な学習活動 | 評価観点 |
|---|---|
| 既習学習：2年次 保健体育科（保健分野）傷害の防止 ○傷害の原因と防止 ○交通事故の現状と原因 ○交通事故の防止 ○自然災害に備えて | 自然災害及び交通事故などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当について関心を持ち、仲間と意見を交換しながら課題を見付け、意欲的に学習しようとしている。【関心・意欲・態度】 自然災害及び交通事故などによる傷害の発生要因とその防止対策、応急手当について自分の知識や経験、資料、仲間の意見や考えなどを基に科学的に考え、他への配慮や選択すべき行動を判断できる。【思考・判断】 |

| 主な学習活動 | 評価観点 |
|--|---|
| <p>3年次</p> <p>学級活動(2時間) 本時</p> <p>○安全と健康、生活の中の様々な危険</p> <p>○人生設計図を基にした課題解決</p> <p>保健体育科(保健分野)</p> <p>傷害の防止</p> <p>○応急手当の意義と手順</p> <p>○意識がない場合の手当</p> <p>○きずの手当て(1) きずの手当て(2)</p> | <p>健康は安全な生活の上に成り立っていることに気付き、進んで安全な生活を送るにはどうすれば良いか考えようとしている。【感心・意欲・態度】</p> <p>自他のライフスタイル・ライフステージには、健康を脅かす様々な危険が潜伏しているという考えをもち理解できる。【思考・判断】【知識・理解】</p> <p>生涯を通じ、危険を予防・回避・対処する重要性を理解できる。【知識・理解】</p> <p>自然災害及び交通事故などによる傷害の発生要因とその防止対策、応急手当の意義や手順について課題解決を通して科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。【知識・理解】</p> |

③ 成果

ア 視覚的効果のある教材の工夫と、生徒の将来を題材にした人生設計図の活用

- ・生徒が書いた人生設計図を基にモデルケースを用いたことで、興味・関心がもて、自他のライフスタイル・ライフステージには健康を脅かす様々な危険があることを、より身近に抵抗なく受け入れることができた。
- ・危険によって予知・回避できるものがあること、遭遇時には適切な対処が重要であることと現在の安全な生活が将来の健康の土台であることを、モデルケースの文面や階段状の外観からも気付き、視覚的な効果も得られた。
- ・安全の視点を個人から地域社会に広がるようにしたことで、「交通安全」「防犯」「生活安全」から「交通安全」「生活習慣」「安全全般」「他者との関わり」など生活全般に関わる安全に目を向けることができた。また、今後の生活の中で自他の安全に配慮しようとしている態度もみられた。



イ 学習形態の工夫

- ・グループ活動を取り入れたことで、グループ内で相互に意見交換をすることができ、他の意見を受け止め、自分の知識や考えに生かすことができた。また発表することにより、自分たちのグループで考えた危険を予防または回避するための対策を整理することができた。



ウ 個々の気付きと、今後の授業へのガイダンスとしての位置付け

- ・授業を通し、各自の生活を振り返り、改善点や改善策を見いだせたことは、今後の安全な生活を送る第一歩となった。今後の授業では保健学習から得られる知識・技能も積み重ねられ、学習のスパイラル効果が得られ、より個々の生活に反映されることが期待できる。

④ 課題

- ・養護教諭と学級担任のT.Tでは、発問の分担など、学級の様子や生徒の実態を最も把握している担任による効果的な学習支援をさらに工夫する必要がある。
- ・生徒が健康と安全に関心をもち、学習活動を通して自分自身の生活に活かす意識をもつことができる授業の工夫が必要である。
- ・ワークシートは、次に行う保健体育「傷害の防止」の指導につなげて活用されるように作成し、評価が継続性のあるものにするなどの工夫が重要である。
- ・適切な行動選択の定着のためには、本時で扱った内容を授業で繰り返していく必要がある。

(3) 高等学校

① 単元設定の理由

高等学校においては、行動範囲や交友関係の広がりにより生活に大きな変化を伴う時期と言える。また、二輪車や自動車免許も取得可能な年齢となってくるため、生徒は事故や事件に遭遇することが増えていくのではないかと考えられる。本校では、入学時の新入生オリエンテーションの中で通学時の交通安全指導を実施している。しかし、通学時や日常生活の中で起きる事故報告では、生徒の安全に関する意識や緊急時の行動選択について課題のあるケースが多い。生徒が、危機に直面した場面で正しく判断し適切に行動していくためには、各自の安全に関する課題の明確化と改善に向けての、継続した指導が重要である。本時で緊急時の自己の改善点を見だし、関係機関との協力・連絡方法を体得することで、関連して実施される交通安全の講話の学習効果をあげることに繋がると考え、設定した。

② 研究の視点との関連

ア 自他の生命を大切にし、安全に関する意識を高める

身近に起きた事例をもとに、緊急時の自分自身の行動と意識について考えさせることは、自分だけではなく、他者の安全に配慮することの大切さに気付き、自他の生命尊重につながる。また、他教科との横断的な単元計画・学校行事の中に、位置付けることは更に多角的なアプローチとなり、意欲を高めることにつながる。

イ 危険を予知・回避し、対処するための知識を習得させる

身近な事例をグループで話し合うことは、緊急時の適切な判断・対処の重要性が理解できるだけでなく、個々の傾向と改善点を見だしながら具体的な行動変容につながる活動となる。また、事例から正しい行動選択と判断、関係機関との協力・連絡方法について理解することは、今までの漠然とした意識が確かな知識として再構築され、確実な実践力に結び付く。

ウ 適切な行動選択ができる技能を育成する

関係機関との協力や連絡方法を、緊急時を想定してロールプレイングで体験しておくことは、緊急時の対処を円滑にし、心構えも備わる。そして緊急時の適切な判断、行動選択に影響し技能の定着にもつながる。

【第2学年 学習計画の例】

| 主 な 学 習 活 動 | 評 価 観 点 |
|--|---|
| 既習学習：1年次 <u>学校行事</u> ○ 新入生オリエンテーション 通学時の安全 <u>現代社会</u> ○ 現代に生きる私たちの課題 ○ 現代の社会生活と青年 <u>保健体育科</u> ○ 交通安全 ○ 応急手当 | 高校生として交通ルールを守り通学時の安全な運転と乗車・歩行と、事故発生時の適切な対処ができる。【関心・意欲・態度】【技能・表現】交通安全の重要性と事故の予知・回避方法を理解し、冷静に判断できる。【知識・理解】【思考・判断】 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について進んで考えることができる。【関心・意欲・態度】【思考・判断】良識ある公民として必要な能力を身に付ける。【技能・表現】 交通事故防止のため、車両の特性を理解し、安全な運転や歩行など適切な行動ができる。【知識・理解】【技能・表現】自他の生命尊重や交通環境の整備の重要性に基づいた行動を考える。【思考・判断】交通事故発生時の責任や補償問題、心肺蘇生法や適切な応急手当を理解する。【知識・理解】一社会人として、緊急場面に応じた迅速な連絡・心肺蘇生法や適切な応急手当ができる。【技能・表現】 |

| 主 な 学 習 活 動 | 評 価 観 点 |
|---|---|
| 2年次 学級活動 本時（1時間） ○ 事例検討で自身の振り返りをしよう ○ 適切な対処と連絡方法を知ろう 交通講話 ○ 交通事故の現状 ○ 交通事故の予知・回避、遭遇時の対処 | 身近なものとして気づき、事例検討を主体的に取り組み自身の課題の明確化と具体的な改善策を導き出せる。【関心・意欲・態度】【思考・判断】緊急時の関係機関との協力・連絡、適切な応急処置とその重要性、社会人としての責任を理解でき、関係機関との連絡方法を体得できる。【知識・理解】【技能・表現】 交通事故の発生メカニズムと事故がもたらす被害や現状を知り、予知・回避の重要性とその方法を理解できる。【知識・理解】安全な交通社会を構築する一員として、交通事故の予知・回避方法を自身の行動に照らし合わせ、考えることができる。【思考・判断】交通安全に関わる行動の変容ができ、安全な生活を送ることができる。【技能・表現】 |

③ 成果

ア 身近な事例の活用

- ・ 実際に起きた事例を取り上げたことによって、自分の身に起こり得る身近なこととしてとらえ、活発に意見交換をし、主体的に学習に取り組むことができた。
- ・ 各グループが発表した、適切にできていない対処について振り返りを行うことで、改善に向けての課題意識と具体的対策をもたせることができた。
- ・ 緊急の場面で適切な行動選択ができないことが、今後の生活にどのような影響を及ぼすか、漠然とした意識を知識に換えることで、緊急時における関係機関との連絡の重要性を理解することができた。

イ 実践力につながる指導と教材の工夫

- ・ ロールプレイングで関係機関との連絡を体験したことで、緊急時の適切な連絡方法を身に付けることができ、今後遭遇するかもしれない緊急時には冷静に対応する重要性を実感し、心構えも備わった。
- ・ 事例にあげた交通事故以外に、「不審者」「自然災害」「急病人」の緊急場面についても活用できる資料を配布することは、緊急場面に遭遇した際の携帯マニュアルにもなり、実践力につながった。

ウ 個に応じた指導

- ・ 各自が緊急時に関する意識と、対処方法の程度を理解し、自分の改善点を見いだすことは個々の傾向をふまえた行動変容が可能になる指導となった。
- ・ 本時を通じて、明確化した課題と各自の生活スタイルから遭遇しやすい緊急場面に目を向けさせることは個々の生活に反映できる指導となった。

④ 課題

- ・ 生徒指導部など校内での連携を図り、生徒の実態に応じた組織的、計画的な安全教育を繰り返し実施していくことが必要である。
- ・ ディベート、班別討議などの方法、関係機関スタッフとの T.T.や実生活に活かせる資料の作成などを通し、正しい知識と適切な行動が定着する授業を開発する。
- ・ 客観的・多角的な視点をもたせ、自己の生活に活かせる具体的な対策を導き出せる指導を繰り返し実施し、実践力をはぐくむ。
- ・ 社会貢献など、社会の一員としての自覚と社会的責任の意識を高める指導の工夫が必要である。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

健康教育部会の「安全教育」分科会では、研究主題「自他の生命を大切にし、安全について主体的に判断し、行動する児童・生徒の育成」を受け、安全について、小・中・高の年間指導計画をもとに一人一人の実践力を高める工夫をすれば、育てたい児童・生徒像に迫ることができると考えた。また、発達段階に合わせるとともに、個に応じた指導を積み重ねることで、スパイラル効果により安全への意識・知識・技能を拡大・継続させることが、実践力につながっていくと考え、研究を進めてきた。

(1) 調査研究を通して

調査仮説である「安全に対する意識・知識をもっている児童・生徒は危険に対して適切な行動選択がとれる。」が検証できた。この結果を基に、意識・知識・技能に関わる研究の視点を設定し、この3つを相互に関連させながら実践力をはぐくむための学習計画を作成することとした。

(2) 研究の視点を通して

① 自他の生命を尊重し、安全に関する意識を高める

健康は安全な生活の上になり立つこと、安全な生活を送るためには、心身の健康や自他の生命を大切にしていけることが必要であることを学級活動、学校行事（セーフティ教室・避難訓練など）、道徳（生命尊重・公德心・規則尊重）で取り扱い、安全に関する意識を高めていくことができた。また、学級指導などでも生命尊重や安全に関する指導を日常的に行い、意識の継続や高まりを図ることができた。

② 危険を予知・回避し、対処するための知識を習得させる。

各教科・学校行事、学級活動、道徳、総合的な学習の時間を相互に関連付け、横断的に取り扱い、これらを教育課程に位置付け、学校安全教育計画を立案・実施することにより、より実践的な理解につなげることができた。

また、関係機関や養護教諭との連携を図ったティームティーチングによる授業では、事例を示すことにより、児童・生徒が身近な問題としてとらえ、確かな知識を定着させるための指導・支援を効果的に行うことができた。

③ 適切な行動を選択できる技能を育成する。

地域安全マップづくり、ロールプレイング、ケーススタディなどの体験的・課題解決的な学習を通し、児童・生徒が課題意識をもち、試行錯誤しながらも、主体的に学習を進める姿が見られた。安全な行動選択ができる判断力が技能の基礎として築くことができた。

2 今後の課題

- ・ 児童・生徒の安全に関する実践力をより確かにはぐくみ、定着させていくためには、安全教育の年間指導計画を教育課程に明確に位置付け、小・中・高の発達段階に応じた指導を途切れることなく、繰り返し行えるよう組織的に取り組んでいく必要がある。
- ・ 安全教育年間指導計画では、関連教科・領域のつながりをより明確にするとともに、生活安全について、さらに指導方法・内容を検討し、教材開発していく必要がある。

「心と体の健康と生活習慣に関する指導」分科会研究主題

自分を大切にし、健康な生活をめざす児童・生徒の育成

I 研究の概要

1 主題設定の理由

近年、昼夜区別のない24時間体制の社会生活の広がりにより、児童・生徒の生活に大きな影響を及ぼしている。食生活の偏り、睡眠不足や生活リズムの乱れ、肥満や体力の低下等、児童・生徒の健康問題は、これら生活習慣が深く関わっていると考えられる。

一方、雑誌やテレビ、インターネット等、メディアを通して健康に関する情報が溢れている。しかし、健康に関する正しい知識を自ら獲得しようとしたり、自分自身の生活を振り返り、日々の健康づくりに取り組んだりしているかという点必ずしもそうとは言えない。これは、自分の心と体の健康問題に関心が低かったり、自らの生活をあえて改善しようという意識が低かったりすること等によるものと考えられる。また、健康に関する様々な情報の中から、正しい情報を選択する力が身に付いていないことも理由として挙げられる。

体調不良を感じていても、その原因を生活習慣と関連付けて考えることや、またそれが心の健康にも深く関わっていることなどに思いが至らない児童・生徒が少なくない。

本研究では、健康に対する意識と実践力とを結び付けるために、自分を大切にする気持ちを日常の中ではぐくみながら、自分の生活と健康の関係について理解を深め、健康の大切さを実感できるような指導方法を工夫する。そして、児童・生徒を取り巻く様々な状況や発達段階には個人差があることを踏まえ、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を通して基本的な生活習慣（*）の確立や児童・生徒の自主的・自発的な健康づくりへの実践力を育てていくことを目指している。また、先行研究において常に課題としてあげられてきた児童・生徒の実践の日常化と健康教育の取組みの一般化も同時に目指していきたい。

以上のことから研究主題を上記のように設定した。

*本研究における基本的な生活習慣の4つの内容…食事・睡眠・運動・排便

2 研究のねらい

- (1) 基本的な生活習慣について、小・中・高・盲・ろう・養護学校の各学年に応じた系統性のある指導内容を明らかにする。
- (2) 自分を大切にする気持ちを日常の中ではぐくみながら、意欲をもって健康な生活を目指す児童・生徒を育てる指導方法を工夫する。

3 研究仮説の設定

研究仮説

自分を大切にできる気持ちを日常の中ではぐくみながら、自分の生活と健康の関係について理解を深め、健康の大切さを実感できるような指導方法を工夫する。そのことにより、児童・生徒の自主的・自発的な健康づくりへの意欲や実践力が育っていくであろう。

4 研究の方法

- (1) 基礎研究…先行研究の分析と参考文献の収集を行う。

主な参考文献

- ・ 21世紀を生きる児童・生徒の健康づくりの指針と方途について
東京都学校保健審議会
- ・ 心の健康と生活習慣に関する指導 実践事例集
文部科学省
- ・ 実践力をはぐくむ健康教育の推進を目指して
東京都教育委員会
- ・ 児童・生徒の健康づくり基本計画推進マニュアル
東京都教育委員会

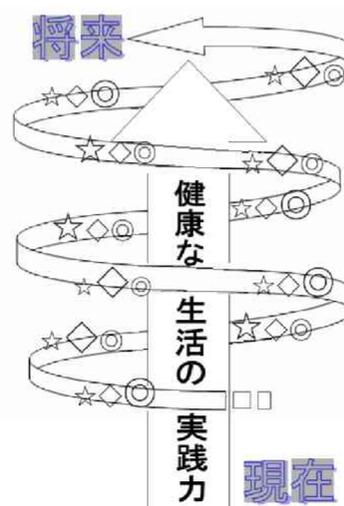
- (2) 調査研究…児童・生徒を対象とした心と体の健康と生活習慣に関する実態調査を行い、分析し考察する。

- (3) 指導計画…発達段階を考慮した学年ごとの指導計画を作成する。

- (4) 授業研究…指導計画をもとに、指導内容、指導方法、指導形態及び教材の工夫を考え、学習計画を作成する。実証授業をし、評価を行う。

5 研究の視点

右の図は、本研究で児童・生徒が健康な生活の実践力を身に付けていく考え方を表したものである。本研究に取り組むにあたって着目した点は『知識の習得から実践へと結び付く指導』である。知識を実際の行動に結び付けて考え、健康な生活を目指していける児童・生徒を育てるために、「自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲」、「自分の心と体や健康に関する正しい知識」、「自分に合った目標を設定する力」の3点を研究の視点とした。自分を大切にできる気持ちをはぐくみながら、個に応じた指導をすること、自らの生活を振り返り評価する自己評価活動と、それらを基に立てられた新たな目標を達成するための実践を継続的に積み重ねる。このことにより、児童・生徒の健康な生活への実践力が現在から将来にわたって高められていくと考える。



☆自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲

◇自分の心と体や健康に関する正しい知識

◎自分に合った目標を設定する力

(1) 自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲

「毎日元気でいるために〇〇しよう。」「健康な体に成長するために〇〇に気を付けよう。」等と健康を意識した生活を送るためには、一人一人の自分のことを大切に思う気持ちが大きく関わっているのではないかと考える。児童・生徒に自分の大切さを実感させることで『自分が好き』や『自分を大切に思う』気持ちをはぐくみ、『自分の心や体を大切にしたい』、だから『健康な生活をしていこう』という健康な生活をめざす意欲へつなげたい。

(2) 自分の心と体や健康に関する正しい知識

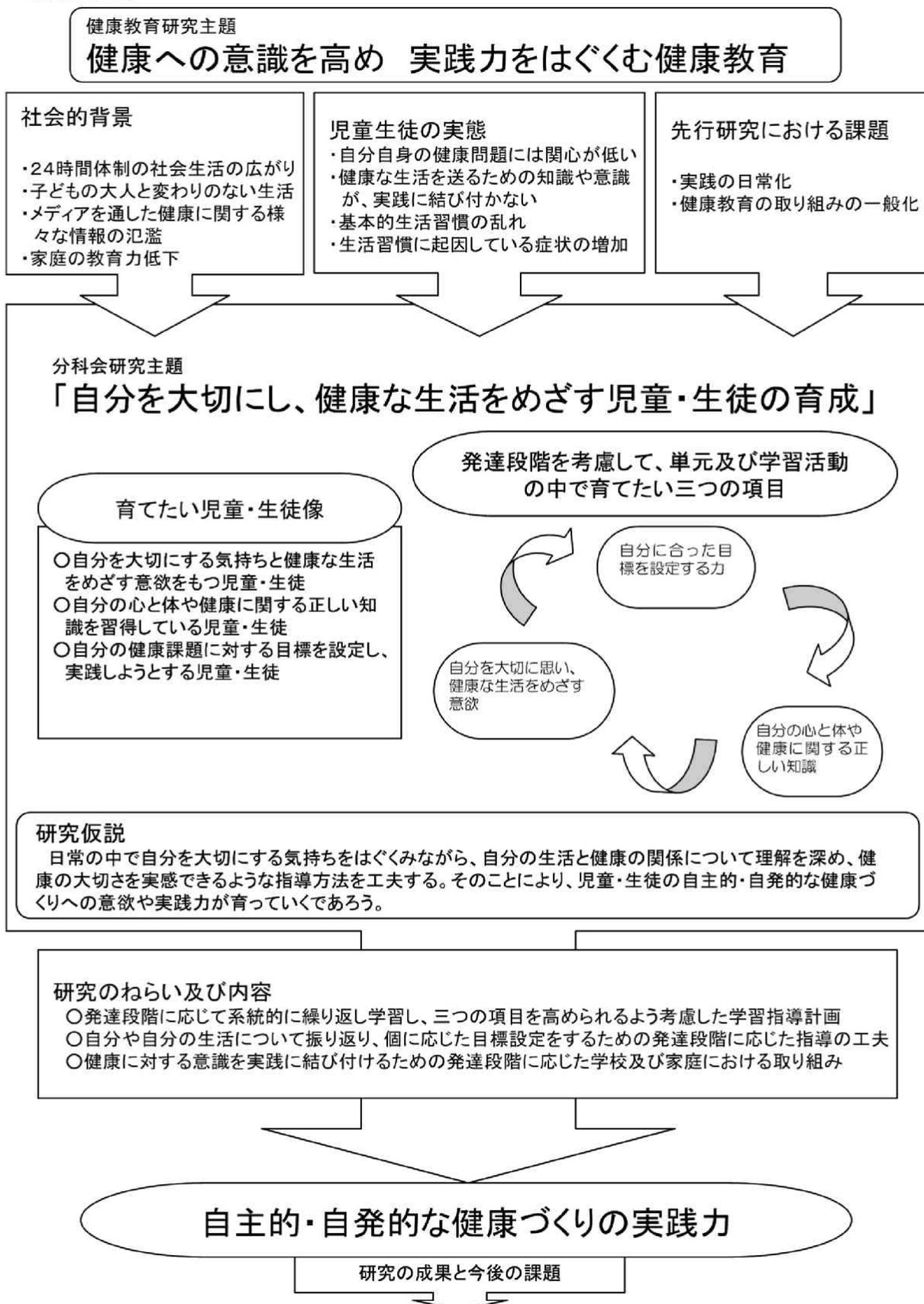
児童・生徒が自分の心や体について関心をもち、自分についてよく知ることや、健康に関する正しい知識を習得することで健康な生活の実践力を高められると考える。基本的な生活習慣の確立をはじめとした健康な生活の実践力をはぐくむために、発達段階に応じた指導を通して健康に関する正しい知識の定着を図る。

(3) 自分に合った目標を設定する力

児童・生徒が健康の大切さを実感し、正しい知識を身に付けるとともに、適切な意志決定・行動選択をする力が、実践力をはぐくむための重要な要素であると考え。児童・生徒を取り巻く様々な状況や発達段階を踏まえ、個に応じた指導を通して、自分の生活を振り返り、健康な生活のために必要な自分に合った目標を自ら設定する力を育てる。

| 健康な生活の実践力を高めるための三つの視点 | 発達段階に応じた視点へのせまり方 | | |
|-----------------------|--|--|-----------|
| | 小学校、盲・ろう・養護学校小学部 *小学校においては家庭からの支援が重要 | 中学校 盲・ろう・養護学校中学部、高等部 | 高校 |
| 自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲 | ・家庭や教師等からの言葉がけや支援（ほめられたり認められたりする体験等）による、自分のよさや大切にされていることが実感できる働きかけ | | 健康な生活の実践力 |
| | ・授業を通して、自己の肯定的な受け入れができる見つけ直しの工夫 | ・価値観や将来への希望の見つめなおしと明確化を図る工夫 ・生徒同士の話し合い等の共有体験を通し、将来への期待感がもてる指導 | |
| 自分の心と体や健康に関する正しい知識 | ・家庭との連携を意識した取組みの工夫 | ・生活範囲の拡大や環境の変化の中で健康を保持増進するための理解の深める工夫 | |
| | ・自分の生活を振り返り、学習し理解を深めた正しい知識を自分の生活に取り入れていこうとする、行動変容を目指した指導方法の工夫 | | |
| 自分に合った目標を設定する力 | ・生活マップ、生活振り返りマップ等による自己評価活動の工夫 | | |
| | ・個に応じた指導と評価の工夫 ・家庭との連携による取組みの工夫と共通理解を図る工夫 | ・自己実現を図る自律的な意志決定・行動選択（ヘルスプロモーション）の必要性の理解を図る工夫 | |

6 研究構想図



II 研究内容

1 調査研究

(1) 調査目的

児童・生徒の健康に対する意識や生活習慣と心の健康の実態をとらえることによって、学校における健康教育の実践のための基礎資料とする。

(2) 調査仮説

健康に対する意識が高く、基本的な生活習慣が身に付いている児童・生徒ほど、自分を大切にすることが高いであろう。

(3) 調査対象

(心と体の健康と生活習慣に関する指導) 分科会研究員所属校

東京都公立小学校8校、中学校4校、高等学校3校、ろう学校1校 計16校の児童・生徒

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 合計(名) |
|----|-------|-----|------|-------|
| 人数 | 1,126 | 971 | 661 | 2,758 |

小学校 1～6年生1,126名 中学校 1～3年生971名 高等学校 1～3年生(高等専門学校1～5年生を含む)661名 計2,758名

(4) 調査の時期

平成17年7月中旬(一学期中)

(5) 調査方法

質問紙法による調査

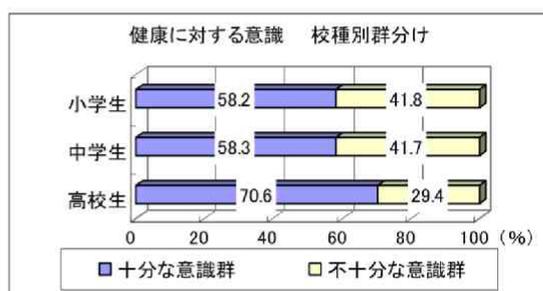
(6) 調査内容

「児童・生徒の心と体の健康と生活習慣に関する調査」

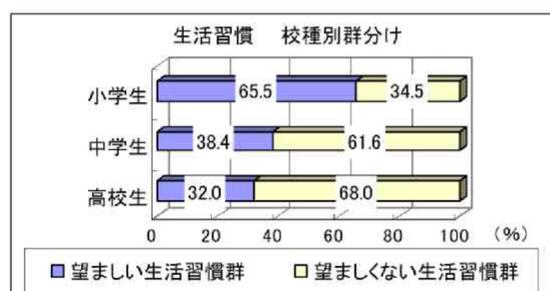
小学校：質問24項目 中学校・高等学校：質問27項目

(7) 調査の結果

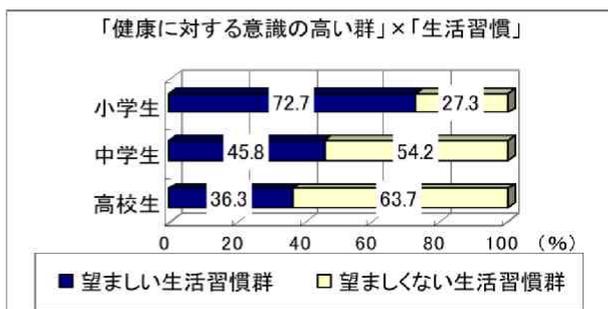
○健康に対する意識



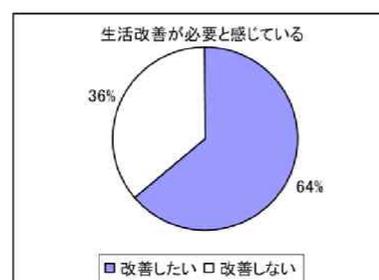
○生活習慣



○健康に対する意識と生活習慣(クロス集計)



○生活改善の必要感(高校生)



健康に対する意識・・・健康に対する意識についての質問項目
 生活習慣・・・・・・・・・・基本的な生活習慣の実践についての質問項目
 心の健康・・・・・・・・・・自分を大切にすることについての質問項目

* 相関係数 $\geq 0.4 \sim 0.7$ で強い相関がある。

| 全体 相関係数 | | | | 小学生 相関係数 | | | | | |
|----------|---------------|----------|------|----------|----------|---------------|------|------|------|
| | | 健康に対する意識 | 生活習慣 | 心の健康 | | 健康に対する意識 | 生活習慣 | 心の健康 | |
| 健康に対する意識 | Pearson の相関係数 | 1 | .506 | .478 | 健康に対する意識 | Pearson の相関係数 | 1 | .510 | |
| | 有意確率 (両側) | . | .000 | .000 | | 有意確率 (両側) | . | .000 | .000 |
| | 人数 | 2758 | 2758 | 2758 | | 人数 | 1126 | 1126 | 1126 |
| 生活習慣 | Pearson の相関係数 | .506 | 1 | .525 | 生活習慣 | Pearson の相関係数 | .563 | 1 | .559 |
| | 有意確率 (両側) | .000 | . | .000 | | 有意確率 (両側) | .000 | . | .000 |
| | 人数 | 2758 | 2758 | 2758 | | 人数 | 1126 | 1126 | 1126 |
| 心の健康 | Pearson の相関係数 | .478 | .525 | 1 | 心の健康 | Pearson の相関係数 | .510 | .559 | 1 |
| | 有意確率 (両側) | .000 | .000 | . | | 有意確率 (両側) | .000 | .000 | . |
| | 人数 | 2758 | 2758 | 2758 | | 人数 | 1126 | 1126 | 1126 |

| 中学生 相関係数 | | | | 高校生 相関係数 | | | | | |
|----------|---------------|----------|------|----------|----------|---------------|------|------|------|
| | | 健康に対する意識 | 生活習慣 | 心の健康 | | 健康に対する意識 | 生活習慣 | 心の健康 | |
| 健康に対する意識 | Pearson の相関係数 | 1 | .499 | .462 | 健康に対する意識 | Pearson の相関係数 | 1 | .404 | |
| | 有意確率 (両側) | . | .000 | .000 | | 有意確率 (両側) | . | .000 | .000 |
| | 人数 | 971 | 971 | 971 | | 人数 | 661 | 661 | 661 |
| 生活習慣 | Pearson の相関係数 | .499 | 1 | .441 | 生活習慣 | Pearson の相関係数 | .437 | 1 | .399 |
| | 有意確率 (両側) | .000 | . | .000 | | 有意確率 (両側) | .000 | . | .000 |
| | 人数 | 971 | 971 | 971 | | 人数 | 661 | 661 | 661 |
| 心の健康 | Pearson の相関係数 | .462 | .441 | 1 | 心の健康 | Pearson の相関係数 | .404 | .399 | 1 |
| | 有意確率 (両側) | .000 | .000 | . | | 有意確率 (両側) | .000 | .000 | . |
| | 人数 | 971 | 971 | 971 | | 人数 | 661 | 661 | 661 |

(8) 調査の考察

健康に対する意識、生活習慣、心の健康に相関関係があり、年齢が低いほど強い相関関係がある。全校種にわたって、生活習慣と心の健康とのかなり強い相関があるといえる。また、いずれの発達段階においても健康に対する意識と生活習慣との相関があるといえる。

健康に対する意識の高い児童・生徒は過半数を超えているが、校種が上がるにつれて、健康に対する意識と生活習慣とが結び付きにくくなるのがわかった。

つまり、発達段階に応じた健康に対する意識や基本的な生活習慣の確立と生涯にわたる健康づくりの実践力を高める指導の工夫が必要である。さらに、児童・生徒が自分を大切にすることをサポートする支援を取り入れることにより、健康を意識したよりよい生活を一層目指していくことができると考えた。

学年別指導計画（例）

| | 小学校(小学部)1年 | 小学校(小学部)2年 | 小学校(小学部)3年 | 小学校(小学部)4年 | 小学校(小学部)5年 | 小学校(小学部)6年 |
|----------------------|--|-------------------------------------|---|---|---|--------------------------------|
| ねらい | ○日常生活における基本的な生活習慣を身に付ける | | ○日常生活をよりよくするための方法を考え、目標をもち行動できる | | ○生涯にわたって自らが健康な生活を送っていくための目標を立てて、実践しようとする意欲を高めることができる | |
| 自分を大切に思い、健康な生活を目指す意欲 | ○自分のよさに気付く ○これまでの成長を振り返り、自分は大切な存在であることに気付く ○自分自身を見つめ直すことで、自分を肯定的に受け入れる ○自分の考えや思いを、素直に表現する | | | | | |
| | ○自分の体について関心をもち、健康な生活を意識している | | ○毎日の生活と健康との関わりについて関心をもち、自ら健康な生活を送ろうとしている | | ○自分の心と体について関心をもち、自ら健康な生活を目指し、実践しようとしている | |
| 関連教科・領域 | (生活科) ともだちになろうよ | (生活科) すてきな自分を 知ってほしい | (体育 保健) 毎日の生活と健康 | (体育 保健) 育ちゆくからだと私 | (体育 保健) 心の健康 | (体育 保健) 病気の予防 |
| | (道徳) ○節度・節制 ○生命尊重 ○家族愛 | | | | | |
| | (特別活動) 自己紹介をしよう | (特別活動) よいところさがしをしよう | (特別活動) 上手な話し方きき方について考えよう | (特別活動) 自分への手紙 | (特別活動) 自分の心と会話しよう | (特別活動) 10年後の私 |
| 自分の心と体や健康に関する正しい知識 | ○自分の体のしくみや働きについて知る ○規則正しい生活リズムを知る | | ○体の発育・発達の仕方について理解する | | ○心も体と同様に発達し、心と体は密接な関係があることを理解する ○心と体の健康づくりについての知識をもち、適切に管理する | |
| | ○健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活の仕方を理解する | | | | | |
| 関連教科・領域 | 体 | (特別活動) 男の子・女の子 | (特別活動) 私の誕生 | (体育 保健) 毎日の生活と健康 | (体育 保健) 育ちゆくからだと私 | (理科) 魚や人のたんじょう 動物のからだの働き |
| | 生活 習慣 | (特別活動) 早寝早起き・朝食・排便の大切さを 知ろう | | | | (体育 保健) 心の健康 けがの防止 |
| | 食 | (特別活動) 食べることの楽しさを知る 食べ物に興味をもつ | | (特別活動) 友だちと仲良く食べる大切さを理解する 食事を作ってくださいる方々に感謝の気持ちをもつ | | (家庭科) 料理って楽しいね おいしいね |
| 自分に合った目標を設定する力 | ○生活習慣を振り返り、良いところ、良くないところを見つける ○よりよい生活を目指し、努力する | | ○生活習慣を見直し、改善点を見つける ○よりよい生活を送るための目標を立て、それを達成するための工夫を考える | | ○生活習慣を見直し、改善点を見つける ○よりよい生活を目指し、新たな目標を設定し、実践する方法を考える | |
| | 関連教科・領域 | | | | | |
| | | | (体育 保健) 毎日の生活と健康 | (体育 保健) 育ちゆくからだと私 | (体育 保健) 心の健康・けがの防止 | (体育 保健) 病気の予防 |
| | (特別活動) 規則正しい生活リズムですごそう 「げんきっ子になろう」 | | (総合的な学習の時間) 健康な生活を送るために自分ができることを考えよう 「めざせ！ スッキリ生活」 | | (総合的な学習の時間) 心と体の健康を考えよう 「心の健康 ～自分を大切に～」 | |
| | | | | | (総合的な学習の時間) 自分の生活を振り返り目標を立てて実践しよう 「生活マップをつくろう」 | |

| 中学（中学部）1年 | 中学（中学部）2年 | 中学（中学部）3年 | 高校（高等部）1年 | 高校（高等部）2年 | 高校（高等部）3年 | 盲・ろう・養護学校 |
|--|---|---|--|--|---|---|
| 自らの生活に関心を持ち、健康な生活を送ろうとする実践力を身に付ける | 自己をみつめ、自己の向上を図る個性を伸ばし充実した生き方を追求する | 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく力を身に付ける | よりよい健康行動を判断し選択することができ、自分に合った目標設定ができる | 健康課題を解決するための能力（ライフスキル）を身に付ける | 自分の行動を評価し健康的な生活に改善していこうとする力を付ける | 学校生活全体の中で健康について繰り返し指導を行い、知識を身に付け、実践力をはぐくむ |
| ○人間として生きる事への喜びや人間の美しさに気付く、人間としてのよさを見出す | ○それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろな物の見方や考え方を理解する | ○望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度のある生活をする | ○自分を見つめ直すことや他者との関わりを通し、客観的自己理解と他者理解を深める | ○自分を表現し他者から自分を認めてもらえる体験を通し、相互の信頼感を得る | ○人間関係を深め、一人一人が対等で不可欠な存在であることを感じる | 盲・ろう及び肢体不自由者（児）・病弱者（児）を教育する養護学校の目標・内容については、小・中・高等学校に準ずる知的障害者（児）を教育する養護学校では、障害の改善・克服を目的とし、障害のある児童・生徒に小・中・高等学校と同一の内容を、同一の方法で学習することが困難なことから、障害の特性に応じた教科や教育課程編成上の特例を設け、個々の障害の状態や発達段階に応じた適切な指導を行うおもな指導内容 |
| （道徳） ・人間的弱さの克服・生きる喜び ・生命の尊重 ・生命のすばらしさ | （道徳） ・かけがえのない命 ・個性の伸長 ・生命の尊重 | （道徳） ・個性の伸長 ・人間らしい生き方 ・人間のすばらしさ ・生命の尊重 | ホームルーム活動 学校行事 クラブ活動 各教科 | ホームルーム活動 学校行事 クラブ活動 社会体験学習 各教科 | ホームルーム活動 学校行事 クラブ活動 各教科 | 高等学校に準ずる知的障害者（児）を教育する養護学校では、障害の改善・克服を目的とし、障害のある児童・生徒に小・中・高等学校と同一の内容を、同一の方法で学習することが困難なことから、障害の特性に応じた教科や教育課程編成上の特例を設け、個々の障害の状態や発達段階に応じた適切な指導を行うおもな指導内容 |
| ○心身の機能の発達や心の健康の保持について理解する | ○人間の健康と環境との関わりを理解し、健康の保持増進を図る | ○健康を保持増進し、疾病を予防するための適切な対策を理解する | ○健康を保持増進するためには適切な生活行動を選択し実践すること、環境を改善していく努力が重要であることを理解する | ○生涯の各段階において健康課題があり、自らそれに応じた対応が必要であること、及び社会生活と健康の課題を理解する | ○個人及び社会生活における健康・安全の理解を深め、生涯を通じて健康を適切に管理し改善する資質や能力の育成を図る | ○領域・教科を合わせた指導 ・日常生活の指導 衣服の着脱・洗面・手洗い・排糞・食事・清潔・挨拶・礼儀作法・時間、きまりを守ること・朝、帰りの会・係活動・掃除 |
| （保健体育） 心身の発達と心の健康 ・身体の発育、発達 ・呼吸、循環機能の発達 ・生殖機能の成熟 ・精神機能の発達と自己形成 | （保健体育） 健康と環境 ・快適な環境 ・身体環境に対する適応能力 ・空気や飲料水の衛生的管理 ・応急手当 傷害の防止 （道徳） 望ましい生活習慣 | （保健体育） 健康生活と病気予防 ・健康の成り立ち ・食生活と健康 ・運動と健康 ・休養と健康 ・生活習慣病と予防 ・喫煙、飲酒、薬物乱用、感染症とその予防 （家庭科） 私達のより豊かな食生活 | （保健体育） 現代社会と健康 ・健康の考え方 ・健康の保持増進と疾病の予防 ・飲酒、喫煙、薬物、医薬品と健康 ・感染症、エイズとその予防 ・意志決定、行動選択 ・交通安全・自己実現・応急手当（生活技術） ・生涯発達と家族 | （保健体育） 生涯を通じる健康 ・生涯の各段階における健康 ・保健、医療制度及び地域の保健医療機関 社会生活と健康 ・環境と健康 ・環境と食品の保健 ・労働と健康（生活技術） ・食生活と栄養 ・食品と調理 ・食生活の管理 | ホームルーム活動 学校行事 クラブ活動 各教科 | ・遊びの学習 ・生活単元学習 ・作業学習 |
| ○規則正しい生活を通して、自分の生き方を正す | ○生きることについての目的や目標をもつ | ○自己理解を深め自分自身のよさや個性を見出す | ○健康によい生活行動の選択と行動定着を図る | ○心と体の健康の大切さを認識できるようにする | ○現在の状況を把握し、生活の質の向上を図る | 農耕・園芸・紙工・木工・縫製・織物・金工・調理など ○教科別の学習 生活・体育・国語・算数（数学）など ○領域別の学習 道徳・特別活動・自立活動・総合学習 |
| （道徳） ・望ましい生活習慣 ・節度を守り節制を心がける （家庭科） ・食事のとり方 ・バランスのとれた食生活 進路活動 | （道徳） ・積極的に生きる ・理想の追求 （家庭科） ・気持ちよく住む ・より良い住まいと住み方を考える 進路活動 | （道徳） ・強い意志 ・充実した生き方 （家庭科） ・より良い家族関係 （社会科） 現代社会と私たちの生活 進路活動 | ホームルーム活動 学校行事 クラブ活動 生徒会活動 各教科 進路活動 | ホームルーム活動 学校行事 クラブ活動 生徒会活動 各教科 社会体験 進路活動 | ホームルーム活動 学校行事 クラブ活動 生徒会活動 各教科 進路活動 | |

評価計画例

【小学校（小学部）】

| | | | |
|------------|---------|--------|---|
| 目標に対する評価規準 | 小学校一・二年 | 関心意欲態度 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の良いところを見付けようとしている。 自分の考えや思いを、素直に表現しようとしている。 自分の体について関心をもち、健康な生活を送ろうとしている。 |
| | | 思考判断 | <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を振り返り、良いところ、良くないところがわかる。 よりよい生活を目指し、努力しようとしている。 |
| | | 知識理解 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の体のしくみや働きについて知ることができる。 早寝早起き・朝食・排便の大切さを知り、規則正しい生活リズムを理解できる。 |
| | 小学校三・四年 | 関心意欲態度 | <ul style="list-style-type: none"> これまでの成長を振り返り、自分は大切な存在であることに気付こうとしている。 自分自身を見つめ直すことで、自分を肯定的に受け入れようとしている。 毎日の生活と健康とのかかわりについて関心をもち、自ら健康な生活を送ろうとしている。 |
| | | 思考判断 | <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を見直し、改善点を見付けることができる。 よりよい生活を送るための目標を立て、それを達成するための工夫を考えることができる。 |
| | | 知識理解 | <ul style="list-style-type: none"> 体の発育・発達の方法について理解できる。 健康の大切さを認識するとともに、健康により生活の仕方が理解できる。 |
| | 小学校五・六年 | 関心意欲態度 | <ul style="list-style-type: none"> これまでの成長を振り返り、自分は大切な存在であることに気付こうとしている。 自分自身を見つめ直すことで、自分を肯定的に受け入れようとしている。 自分の心と体について関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践しようとしている。 |
| | | 思考判断 | <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を見直し、改善点を見付けることができる。 よりよい生活を目指し、新たな目標を設定し、実践する方法を考えることができる。 |
| | | 知識理解 | <ul style="list-style-type: none"> 心も体と同様に発達し、心と体は密接な関係があることを理解できる。 健康の大切さを認識するとともに、健康により生活の仕方が理解できる。 心と体の健康づくりについての知識をもち、適切に管理することができる。 |

【中学校（中等部）】

【高等学校（高等部）】

| | | | |
|------------|--------|--|--|
| 目標に対する評価規準 | 中学一年 | 関心意欲態度 | 人間として生きることへの喜びや人間の美しさに気付き、人間としてのよさを見いだそうとしている。 |
| | | 思考判断 | 規則正しい生活をして、自分の生き方を正すことができる。 |
| | | 知識理解 | 心身の機能の発達や心の健康の保持増進について理解することができる。 |
| | 中学二年 | 関心意欲態度 | それぞれの立場や個性を尊重し、色々なものの見方や考え方を理解しようとしている。 |
| | | 思考判断 | 生きることについての目的や目標を持ち適切な行動を選択することができる。 |
| | | 知識理解 | 人間の健康と環境とのかかわりを知り、健康の保持増進を図る必要性を理解し、その知識を身に付けている。 |
| | 中学三年 | 関心意欲態度 | 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度のある生活をしようとしている。 |
| | | 思考判断 | 自己理解を深め自分自身のよさや個性を見いだすことができる。 |
| | | 知識理解 | 健康を保持増進し、疾病を予防するための適切な対策を立てる知識を身に付けている。 |
| 目標に対する評価規準 | 高校一年 | 関心意欲態度 | 自分を見つめ直すことや他者とのかかわりを通し、客観的自己理解と他者理解を深めようとしている。 |
| | | 思考判断 | 健康により生活行動の選択と行動定着を図ることができる。 |
| | | 知識理解 | 健康を保持増進するためには適切な生活行動を選択し実践すること、環境を改善していく努力が重要であることを理解することができる。 |
| | 高校二年 | 関心意欲態度 | 自分を表現し他者から自分を認めてもらえる体験を通し、相互の信頼感を得ようとしている。 |
| | | 思考判断 | 自分自身の心と体の健康の大切さを認識できる。 |
| | | 知識理解 | 生涯の各段階において健康課題があり、自らそれに応じた対応が必要であること、及び社会生活と健康の課題を理解することができる。 |
| 高校三年 | 関心意欲態度 | 人間関係を深め、一人一人が対等で不可欠な存在であると感じようとしている。 | |
| | 思考判断 | 現在置かれている状況を正確に把握し、生活の質の向上を図ることができる。 | |
| | 知識理解 | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて健康を適切に管理し改善する資質や能力を身に付けることの重要性を理解できる。 | |

4 検証授業

(1) 小学校

①研究の視点との関連

ア 自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲

基本的な生活習慣の確立は、家庭の協力なくしては考えられない。そこで、「元気アップチャレンジ週間」の取組みの中で、家族の一員として生活を振り返り自己を見つめる機会をつくる。家庭からのアドバイスや応援メッセージを受けることで、児童が、「自分は大切に育てられている」と感じられるよう、あらかじめ保護者に向けて協力を呼びかけた。また、「生活ふり返りマップ」を活用して自分の課題を考える際、グループの中で共感し、認め合えるようなグループ活動の場を設定した。

イ 自分の心と体や健康に関する正しい知識

4年生の保健学習「育ちゆく体とわたし」の単元で、発育の仕方には個人差があり、心身の健全な発育や健康の保持増進には食事、運動、休養及び睡眠、排便の調和のとれた生活を送ることが大切であると学んだ。さらに、得た知識を自分の生活に結び付けられるよう総合的な学習の時間においても生活習慣について振り返る活動を設定し、理解を深められるようにした。

ウ 自分に合った目標を設定する力

食事、運動、休養及び睡眠、排便の4つの内容に関する「生活ふり返りマップ」を作成することで、自分の生活で改善すべきことは何かが見えてきた。そして、できていない理由について考えることによって、具体的な工夫を見付けることにつながった。また、グループでの話し合いを行い、友だちの工夫に気付き、自分の生活に取り入れていきたいことについて考えた。

その後、目標を実践するために、「元気アップチャレンジ週間」に取り組み、実践が可能な工夫があることにも気付かせた。そして、1週間の自分の取り組みを振り返り、「生活ふり返りマップ2」を作成することで変容に気付き、さらに実践していこうとする意欲を高めた。

②研究の概要

3年生から始まる保健学習の内容を見ると、どの学年にも基本的な生活習慣の確立に関わる内容が含まれている。しかし、実践に結び付けにくいために、保健学習を発展させ、総合的な学習の時間において児童が自分の生活習慣を見直し、目標をもち実践していく活動を取り入れた。

4年「育ちゆく体とわたし」の単元の中で、基本的な生活習慣に関する学習を行った後、自分の生活について振り返るために「生活ふり返りマップ」を作成し、一人一人の目標をたてた。そして、保護者からのアドバイスや友達の工夫などを取り入れ、具体的に改善すべきところを明確にし、1週間の「元気アップチャレンジ週間」に取り組んだ。その後、「生活ふり返りマップ2」を作成することで変容に気付き、さらに実践していこうとする意欲をもたせた。

小学生の生活習慣の確立には、家庭の協力が必要であると考え、子どもに目を向け、一緒に考えていけるようなチャレンジカードを作成した。また、子どもが「自分は大切に育てられている」という実感をもてるように、子どもを認め、励ましてもらえるような言葉かけの協力をお願いした。

【実証授業例 4年】

単元名 「めざせ！ スッキリ生活」(5時間扱い)

- ねらい
- ・自分自身を見つめ直し、毎日の生活に関心を持ち、健康の大切さを認識する。
 - ・体の発育・発達の仕方について理解する。
 - ・より健康な生活を送るために、改善点を見付け実践しようとする。

学習計画

| 時数 | 教科領域 | 学習活動 | 評価 |
|---|---------------|--|--|
| 1 | 体育(保健) | 大きくなってきたわたしの体 ●身長や体重の変化には、個人差があることを理解する。 | <input type="checkbox"/> 身長伸び方をはじめ、体の発育には、個人差があることを理解している。 |
| 2 | 体育(保健) | すくすく育て わたしの体 ●成長期に必要な栄養素と排便の大切さ、運動や休養及び睡眠が体に与える影響について学習する。 | <input type="checkbox"/> 望ましい生活習慣と成長期の健康的な発育との関係を理解している。 |
| 3 | 学習の時間 総合的な | 自分の生活習慣を見つめ直そう ●食事、運動、休養及び睡眠、排便について、「生活振り返りマップ1」を作り、自分の課題を考える。 | <input type="checkbox"/> 自分の生活習慣について前向きな気持ちで振り返り、自分の課題を見付けている。 |
| 4 本時 | 学習の時間 総合的な | 見つけよう！やってみよう！自分にできること ●前時に考えた課題グループごとに、よい点・改善点を話し合ったり、アドバイスし合ったりする。 ●健康な生活を送るために、自分に合った目標と目標達成に向けての工夫を考える。 | <input type="checkbox"/> 互いのよい点や改善点などについて話し合う中で、健康な生活を送るために自分でできることに気付き、目標や工夫を考えることができる。 |
| チャレンジ週間 <input type="checkbox"/> 自分の目標に向かってチャレンジしよう ●保護者からの応援メッセージを書いてもらう。 ●自分の目標に向かって取り組みながら、工夫に対する振り返りも毎日行い、感想を書く。 ●保護者にも、自分の取り組みについての感想を書いてもらう。 | | | |
| 5 | 学習の時間 総合的な | 健康な生活を送るために自分ができることを考えよう ●自分の取り組みをもとに、「生活振り返りマップ2」を作り、取り組みを振り返り、もっとがんばりたいことを発表する。 | <input type="checkbox"/> もっとがんばりたいことについて自分なりに考え、今後の実生活に役立てようとしている。 |

③成果

- ・保健学習を踏まえ、総合的な学習の時間で発展させたことにより、得た知識を自分の生活に生かした。
- ・「生活振り返りマップ」で自分の生活を振り返り、具体的な目標や改善点を考えることができた。
- ・課題別グループでの活動で、友だちの工夫や意見を取り入れ、お互いに認め合う姿が見られた。
- ・チャレンジ週間の取り組みを事前に家庭にも知らせ、一緒に取り組むことにより、基本的な生活習慣について見直してもらうきっかけとなった。
- ・チャレンジカードの家庭からの応援メッセージや励ましにより、前向きに生活習慣を確立させていこうとする児童の姿が見られた。

④課題

- ・生活習慣に関する指導は、様々な方法で系統立てた計画を、繰り返し指導していく必要がある。
- ・児童が自分を大切にする気持ちをもてる場や児童同士がお互いを認め合えるような場を、日頃の学校生活の中で、意識的に設定していく必要がある。
- ・個に応じた目標設定や工夫を見取り、指導していくための丁寧な児童理解が必要である。
- ・家庭の意識の向上と連携の継続について考えていく必要がある。

(2) 中学校

① 研究の視点との関連

ア 自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲

道徳の時間での「生命の尊重」の単元を通して、生徒が自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲を高める取組みを考えた。そこで、ゲストティーチャーとして医師を招いて授業を行い、医師という立場からの生命や健康に関する話を聞くことにより、かけがえのない自他の生命の尊さや大切さを自覚し、生きる喜びを理解し、前向きに生きる態度を身に付けるための機会をつくった。

イ 自分の心と体や健康に関する正しい知識

基本的な生活習慣の確立をはじめとする健康づくりに関する知識を身に付けるとともに、そこで得た知識が自らの生活改善へとつながることを目指して、保健体育「生活習慣病とその予防」の単元で取り組むこととした。その際、道徳の授業において使用したゲストティーチャーの資料を提示することにより、教科書だけでは得られない現在及び将来にわたって健康に過ごすために必要な基本的な生活習慣に対する知識をより深めることを試みた。

ウ 自分に合った目標を設定する力

道徳の授業を通して、生徒が自分や他者を大切に思う思いや健康な生活をめざす意欲をはぐくませ、「生活習慣病とその予防」の単元では、健康に対する正しい知識を身に付けるとともに、健康な生活に必要な自分に合った目標を設定させる力を育てたいと考えた。そのために、生活マップやワークシートを活用し、自分を大切にし、健康な生活をめざすための具体的な目標や改善点をより導きやすいものとした。

② 研究の概要

毎日の生活の中で生徒が自主的、自発的に健康づくりに取り組む意欲を高めるためには、その根底にある自分を大切に思う気持ちをはぐくむことがまず必要と考え、道徳の授業の「生命の尊重」において、医師とティームティーチングを組み、かけがえのない自他の生命の尊さ・大切さを自覚させるとともに、生きる喜びを理解させ、前向きに生きる態度を育てた。このように、道徳や特別活動との綿密なクロスカリキュラムを組むことにより、より深く課題をとらえて目標を設定する力を高めることを試みた。

保健体育の活動では、生活マップや健康チェックカードを使うことにより、現在の自分の健康状態を自分で把握するとともに、自分の生活習慣をみつめ直し、自他の課題を振り返る機会とした。

また、班活動により、他者の健康や生活習慣にも配慮し、お互いの生活習慣を改善するために肯定的な意見を出し合えるようにした。さらに、課題に対する具体的な対策を導き出すことができるようにワークシートを使用し、学んだ知識を実践に結びつける力を育てることを目指した。

その後、学級活動における進路学習に関連付け、自分の将来の目標を実現させるためには、正しい知識を得るだけでなく、行動変容をとまなう、よりよい生活習慣の確立が欠かせないことを再認識できるようにした。

【実証授業例 保健体育】

題材名 第3学年 「生活習慣病とその予防」

- ねらい
- ・健康の保持増進には生活習慣が深くかかわっていることを知り、望ましい生活習慣を身に付けるために自分の生活習慣を振り返ることができる。
 - ・健康で充実した生活を送るための自分の課題に気付き、課題解決に向けて目標を立て、主体的に取り組む力を育てる。

学習計画（12時間抜きの4・5時間目）

| 時数 | 教科領域 | 学習活動 | 評価 |
|----|------|---|--|
| 1 | 保健体育 | ○健康チェックカードと生活マップを使用し健康状態を把握し、自分の生活習慣を振り返る。 ○望ましい生活習慣を知る。 | ◇自分の生活習慣を振り返ることができる。 ◇望ましい生活習慣を理解することができる。 |
| 2 | 保健体育 | ○ワークシートをもとにグループで話し合う。 ○自己の課題に気付き適切な目標を立てる。 | ◇肯定的なアドバイスをし合うことができる。 ◇自分にとって望ましい生活習慣を明確にすることができる |

③ 成果

- ・関連教科や領域とクロスカリキュラムを組むことによって、より高い教育的効果を得ることができた。
- ・事前アンケート・生活マップ・ワークシートの活用により、自分の健康状態や生活習慣を振り返り、具体的な目標や改善点を考えることができた。
- ・道徳の単元で、自他の生命の尊さ、大切さを自覚させたことにより、自分だけでなく友達ワークシートや生活マップに対しても、積極的に意見を出し合い、お互いを高め合おうとする姿勢が多く見られた。
- ・実証授業を学校参観週間に行ったことにより、基本的な生活習慣を確立する必要性を保護者にも理解してもらうことができた。
- ・現職の医師とティームティーチングを行うことにより、実例を通して健康の大切さを深く認識させることができた。

④ 課題

- ・道徳の授業だけでなく、保健の授業にもゲストティーチャーによるティームティーチングができれば、より専門性の高い授業を行うことができたのではないかと考える。そのためにも普段から地域の人材の積極的な活用を心がける必要がある。
- ・生活習慣に関する指導は、繰り返し行っていく必要がある。そのための指導計画を作成するには教員間のより綿密な打ち合わせが大切である。
- ・参観週間や授業公開日などを有効に活用し、より多くの保護者の参加する手だてを工夫し、家庭との連携を図ることが必要である。

(3) 高等学校

① 研究の視点との関連

ア 自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲

自分を大切に思う気持ちを高めるための一つの要素として、自分を見つめ直すことや他者とのかかわりを通し、客観的的自己理解と他者理解を深めることが必要であると考えた。

そこでグループワークを積極的に取り入れ、他者からの良い評価や共感体験が得られやすいようにした。また生活マップを用い、視覚的な作業を通して現在自分が大切にしている習慣があることに気付かせ、自分を肯定的に受け止められるように工夫した。

イ 自分の心と体や健康に関する正しい知識

生活習慣については小・中学校でも学習してきているため、高校では望ましい生活習慣を再確認した上で、健康や日常の生活にも意志決定や行動選択が関わっていることへの知識・理解に重点をおいた。保健室来室記録や喫煙の選択、ロールプレイングなどを通し、日頃の自分の心や体の状態や、身近な健康問題から意志決定と行動選択の関連について気付かせるよう工夫した。

ウ 自分に合った目標を設定する力

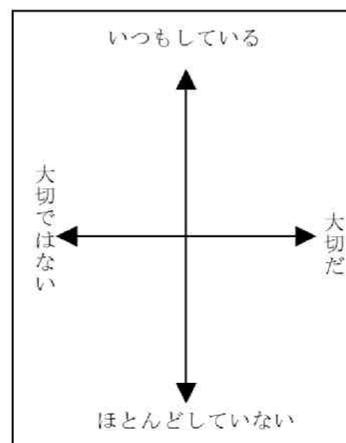
自分が「大切にしているが出来ていない生活習慣」「大切にしている生活習慣」について確認し、日常の生活を振り返り、健康な生活を送るための改善点がみえてくるようワークシートを工夫し活用した。またグループワークの中で健康な生活を送るためにしている工夫を話し合い、身近なところから実践していくための目標をもてるようにした。

① 研究の概要

本分科会の調査（P.24 グラフ参照）では「健康な生活（食事・睡眠・運動・排便）に関わる意識をもっている」とする高校生が約7割いる一方で、「12時以降に就寝する」生徒が半数を占め、「自分の生活についてよくない、直した方がよい」と考えている生徒が約6割いることから、健康に関する意識が必ずしも実際の生活に結び付いているとは言えないという実態がわかった。そこで保健体育科の単元「健康に関する意志決定・行動選択」を軸に学習計画を作成し、日常の生活にも意志決定・行動選択が関わっており、それには様々な要因が関係していることを理解させた。そして生徒が自分の生活習慣を振り返り、日頃の心と体の健康状況と生活習慣の関連に気づき、身近なところからできる改善策を考えられるよう、生活マップ、ワークシート、グループワークを取り入れた指導を行った。

【生活マップ】

具体的に自分の生活を振り返り、日頃の生活パターンを明確化させるために、基本的な生活習慣（食事・睡眠・運動・排便）を含む生活全体に関わる20項目（あらかじめ付せんに記入しておく）を、「いつもしている」「ほとんどしていない」、「大切だ」「大切ではない」という4つの指標に分類する。基本的な生活習慣に関わる項目については色の異なる付せんを用い、視覚的に把握できるようにした。



【実証授業例 保健体育】

題材名 第1学年 「健康に関する意志決定・行動選択」

ねらい・自分の生活を振り返りグループで話し合うことによって、自分を深く理解しようとする。

- ・健康な生活を送るためには、適切な意志決定・行動選択が必要なことを理解する。
- ・健康に結び付く適切な意志決定と行動選択をするための方法を、自分の生活習慣に結び付けて考える。

学習計画

| 時数 | 教科領域 | 学習活動 | 評価 |
|----|------|---|--|
| 1 | 保健体育 | <p>「健康」と意志決定・行動選択の関連を考えよう</p> <p>○意志決定・行動選択には、様々な要因が関係していることを知る。個人的要因として、知識・価値観などがあることを知る。</p> | <p>□「健康」と意志決定・行動選択の関連について理解することができる。</p> |
| 2 | 保健体育 | <p>自分の生活習慣について振り返り、身近なところからできる改善策を考えよう。</p> <p>○生活マップの作成とワークシートの記入後、改善策をグループで話し合う。</p> <p>○良い生活習慣やそのためにしている工夫を発表し、ワークシートに目標を記入する。</p> | <p>□大切にしている生活習慣を実行するために工夫していることを話し合い、共有することができる。</p> <p>□自分の課題に気付き、課題を解決するための目標を立てることができる。</p> |
| 3 | 保健体育 | <p>意志決定・行動選択に必要なことについて、自分の生活や行動に結びつけて考えよう。</p> <p>○コマースの分析から、意志決定・行動選択に影響する社会的要因について考え、正しい知識・判断力・断る方法を自分の生活や行動に結び付けて考える。</p> | <p>□多様な情報の中から適切なものを選択する方法を考えることができる。</p> <p>□健康な生活を送るための方法を選択し、身近なところから実践しようとしている。</p> |

③成果

- ・普段あまり意識せずに行っている生活習慣を、生活マップを作成するという作業を通し振り返って考えさせることができ、生活全体に影響を及ぼすことを再確認できた。
- ・大切にしている生活習慣に気付くことで客観的に自己を見つめることができ、グループワークでは共感体験や他者理解を深めることができた。
- ・グループの話し合いの中で生活のあり方がそれぞれ違うことに気付き、友人の良い生活習慣を具体的に知ることで、自分にも取り入れようという意欲をもたせるきっかけになった。
- ・自己で設定した課題に対し取り組む姿勢が見られた。

④課題

- ・授業での取り組みを生活に定着させ、より実践につなげていくために、自分を大切にする気持ちをはぐくむことや自己評価活動、目標設定と行動選択について教育活動全体を通して繰り返し指導する必要がある。
- ・ワークシートに設けられた一人一人の課題に向けての目標を読み取り、生徒に返していく必要がある。また、担任と必要な情報を共有し、課題解決に必要な支援をしていく。

(4) ろう学校

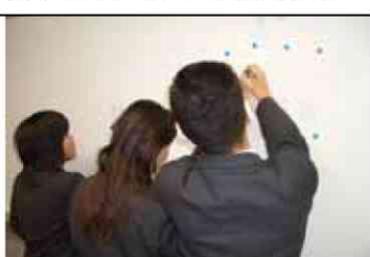
① 研究の視点との関連

ア 自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲

日常生活での様々な生活習慣を見直すため、生活マップを用い、自分を見つめ直し、課題を明確にした。いつも大切にしていること・そうでないこと、できていること・できていないことを再認識し、それぞれの理由を考え、毎日の生活に生かせるよう考えた。

イ 自分の心と体や健康に関する正しい知識

《ブレインストーミングで具体策を探る》



喫煙と健康・飲酒と健康の学習では、自分にあてはめて、今後どのような問題が起こりうるのかを具体的に考え、それらについて、個人的な対策・社会的な対策について説明できる力を付けた。ブレインストーミングを行い、副流煙から身を守る方法、未成年の喫煙・飲酒をなくす方法など、法律を用いた説明や身体への影響を述べるなど、個々が具体的な方法を考え、発表した。その後、1対1、2対2などによるロールプレイングを行い、実際起こったことを想定し、身に付けた知識・方法が有効であるかを確認した。そして、誘われたときにどんな対応をすればよいのか、周囲の状況や相手の心境を察した上で、正しい意志決定・行動選択を身に付ける取組みを行なった。

ウ 自分に合った目標を設定する力

《ロールプレイで正しい意志決定・行動選択をする》



ホームルーム活動で生活マップを使い、自分の生活習慣を再認識した上で、自己の課題と向き合い、目標を立て、具体的な改善策を考えた。生活習慣については、今まで自然と身に付いていることなどは、なぜそうなのかという理由を考えることが難しい。しかし、教師がアドバイスをすると自ら気付くことができる生徒が多かった。マップを分析し、一人一人の障害や発達段階、性格などを踏まえたうえで、適切な言葉かけが必要である。それにより、自ら目標を見直し、設定する力が身に付いた。

② 研究の概要

事前のアンケート調査の結果から、自分のことが好きではない・自分のことを大切に思わない生徒が41%いることが分かった。そこで、自分の生活を振り返り、自己を見つめ直す取組みを通して、自己を肯定できるような支援が必要と考えた。保健体育では、喫煙・飲酒・薬物と健康について考え、ブレインストーミングやロールプレイングを繰り返し行い、正しい知識の習得や、他者からの誘いを断り、自分の身を護る術を身に付けた。また、健康に悪影響を及ぼす要因について、自らの生活を振り返りながら具体的に考えることによって、自分を大切にしたいと考えた。ホームルーム活動では、生活マップを使い、意識していなかったことを明確にし、整理し、自分の生活習慣を振り返り、課題や目標を再検討した。

③ 成果

- 生活マップ、アンケート、ワークシートを使い一人一人に応じた支援を行ったことにより、望ましい基本的な生活習慣に関する意識を高めることができ、自己の生活習慣に結び付けた目標を立て実践することができた。
- ブレインストーミングやロールプレイングを行ったことで、多くの情報や誘惑の中から、適切な情報を選び出し、自らが意志決定・行動選択できる力を養うことができた。

④ 課題

- 生活マップで明確になった自己の課題に対して、短期的には取り組むことができるが、長期的に取り組んでいけるような継続したプログラムが必要である。
- 自己の生活習慣で、乳幼児期からの生活体験やしつけによって習慣化されたものに関しては、時間をかけて計画的に改善を図る必要がある。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

健康教育部の「心と体の健康と生活習慣に関する指導」分科会では、分科会研究主題を「自分を大切にし、健康な生活をめざす児童・生徒の育成」とした。児童・生徒が自分を大切にする気持ちをはぐくみ、自分の生活と健康の関係について理解を深め、健康の大切さを実感できるような指導方法を工夫した。また、生活習慣に関して自ら判断、選択、行動していく活動の積み重ねを通して、望ましい健康づくりへの実践力が育っていくであろうと考え研究を進めてきた。

(1) 調査研究を通して

健康に関する意識が高い児童・生徒ほど規則的な生活習慣、生活行動をしており、また、「自分を大切にすること」が高いということが明らかになった。健康に関する意識や「自分を大切にすること」を高めることが、より健康な生活をめざす児童・生徒の育成につながることを確認することができた。

(2) 研究の視点を通して

①「自分を大切に思い、健康な生活をめざす意欲」

・事前アンケート・生活マップ・ワークシートの活用により、自分の生活を振り返り、客観的に自分を見つめ直すことができた。チャレンジ週間の取組みにより身近なところから見直していこうとする意欲をはぐくむことができた。

・目標を設定し実行する過程において、家庭・友達・教師から共感的・肯定的な励まし・意見をもらうことにより、自分を大切に思う意識が高まっている様子がみられた。

②「自分の心と体や健康に関する正しい知識」

・小学校では、保健学習をふまえて学級活動や総合的な学習の時間で発展することにより、得た知識を自分の生活に取り入れ、より実感することができた。中学校では現職の医師とティームテイーチングを行うことにより健康の大切さを事例を通して深く認識させることができた。

・高校では望ましい生活習慣を再確認した上で、健康や日常の生活にも意志決定や行動選択が関わっていることへの知識・理解に重点をおいた。保健室来室記録や喫煙の選択、ロールプレイング等を通し、身近な問題から意志決定や行動選択の関わりについて気付かせることができた。

③「自分に合った目標を設定する力」

・生活マップで自分の生活を具体的に振り返り、改善点を見つけることで自ら目標を設定することができた。また、グループワークで健康な生活を送るための工夫を話し合ったり、意見を交換したりする中から、新たに身近な目標を見つけることができた。

・望ましい生活習慣の形成には、家庭との連携も大切であると考え、学習内容を詳細に知らせたり、家庭の協力による生活改善に取り組んだりした。このことは、家庭でも生活習慣を見直す機会となり、子どもたちの実践力へとつながった。

2 今後の課題

健康な生活を送るためには、望ましい生活習慣が、継続的に実践されていかなければならない。学校における指導のみならず、家庭との連携を深めながら日常生活の中で、継続的に指導していく必要がある。今後も、生活習慣に関する指導の大切さを学校から発信し、さらに学校・家庭・地域が一体となって実践力をはぐくんでいきたい。

平成17年度 教育研究員名簿（健康教育）

| | 区市町村名 地区 | 学 校 名 | 氏 名 |
|-----------|--------------------------------|----------------------|--------------------|
| 「安全教育」分科会 | 江東区 | 豊 洲 小学校 | ◎ 小 野 春 彦 |
| | 杉並区 | 高井戸第二小学校 | 岸 田 佳 子 |
| | 練馬区 | 富士見台 小学校 | 松 井 貴 子 |
| | 江戸川区 | 東 小 岩 小学校 | 近 津 悦 子 |
| | 三鷹市 | 第 三 小学校 | 高 橋 真 弓 |
| | 府中市 | 府中第八 小学校 | 鈴 木 章 郎 |
| | 町田市 | 金 井 小学校 | ○ 宇田川 真 |
| | 日野市 | 三 沢 台 小学校 | 片 岡 美 和 |
| | 江戸川区 | 松江第三中学校 | 中 山 幸 子 |
| | 世田谷区 | 弦 卷 中学校 | 菊 池 昌 子 |
| | 江戸川区 | 篠 崎 中学校 | 木 曾 ゆき子 |
| | 国立市 | 国立第一中学校 | 神 田 宜 典 |
| | 7 | 都立富士森高等学校 | 岩 佐 元 子 |
| | 「心と体の健康と 生活習慣に関する 指導」分科会 | 品川区 | 平 塚 小学校 |
| 世田谷区 | | 砧 南 小学校 | 佐 藤 まなみ |
| 北 区 | | 滝野川第三小学校 | 横 矢 昭 子 |
| 北 区 | | 西 浮 間 小学校 | ○ 岡 村 光一郎 |
| 葛飾区 | | よ つ ぎ 小学校 | 鈴 木 章 子 |
| 小金井市 | | 南 小 学 校 | ◎ 篠 宏 明 |
| 東村山市 | | 大 岱 小 学 校 | 稲 生 久美子 |
| 神津島村 | | 神 津 小 学 校 | 丸 井 和 子 |
| 練馬区 | | 開進第三 中学校 | 森 川 紀 子 |
| 江戸川区 | | 葛 西 中 学 校 | 杉 山 治 子 |
| 調布市 | | 第 八 中 学 校 | 山 本 優 子 |
| 3 | | 都立豊多摩高等学校 | 宮 川 悦 子 |
| 7 | | 都立松が谷高等学校 | 金 子 たまよ |
| 8 | | 都立多摩高等学校 都立葛飾ろう学校 | 馬 場 智 子 太 田 達 宏 |

担当 東京都教職員研修センター ◎世話人 ○副世話人
指導主事 浅岡 寿郎
指導主事 柏原 聖子

平成17年度教育研究員研究報告書

〔 東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号 〕

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 株式会社 今 関 印 刷